

授 業 概 要

平成24年度

———— 1 年 次 ————

群馬医療福祉大学 看護学部

〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡787-2

TEL 0274-24-2941

FAX 0274-23-4160

目 次

授 業 内 容

哲学	1
法学（日本国憲法含む）	2
基礎演習I	3
ボランティア活動と自己省察	5
論語	6
人間の心理	7
論理学	8
社会学	9
化学	10
物理学	11
情報処理演習	12
統計の基礎	13
生活科学	14
道徳教育研究	15
基礎英語	16
医療英語	17
スポーツ科学原理	18
スポーツ演習	19
人体構造機能学I	20
人体構造機能学II	21
人体構造機能学III	22
人体構造機能学IV	23
人体構造機能学V	24

疾病治療総論	25
疾病・治療論各論Ⅰ	26
疾病・治療論各論Ⅱ	27
微生物学	28
生化学	29
栄養学	30
病理学	31
臨床薬理・薬物論	32
看護学概論Ⅰ	33
看護学概論Ⅱ	34
看護方法論Ⅰ	35
基礎看護援助技術Ⅰ	36
基礎看護援助技術Ⅱ	37
基礎看護援助技術Ⅲ	38
基礎看護援助技術Ⅳ	39
看護論	40
看護基礎実習Ⅰ	41
精神看護学概論	42
精神看護学援助論Ⅰ	43
成人看護学概論	44
高齢者看護学概論	45

科目名	哲学			担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数	1
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

哲学には物事の合理的認識と人の徳を探究することが含まれる。それら人間性の探究と我が身の人生観について学んでゆくものである。

■授業の概要

哲学字の訳語は江戸後期の西周の訳語とされている。それまでは宋学における性理学の概念をもって認識していた。性理学の根拠、伝承、学統を時間の許す限りテキスト外の資料とともに講義、紹介してゆく。東西の両洋の哲学の要を論じてゆく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	哲学字、及び性理学の伝統、総合を見てゆく	テキスト 序文
第2回	儒教及び儒学の哲学思想について	テキスト 1頁
第3回	孔子と代々の儒学者について	テキスト 7頁
第4回	仁について	テキスト 56頁
第5回	義・礼・智・信について	テキスト 57頁
第6回	孔門の十哲等を中心として	テキスト 90頁～107頁
第7回	日本儒教について	テキスト 114頁～118頁
第8回	儒教哲学の本旨について	テキスト 137頁～153頁
第9回	儒学における有徳者(君子)の称を論じて論語章句に説き及ぶ	テキスト 153頁～156頁
第10回	儒学における根本思想(仁・礼)の指摘	テキスト 156頁～161頁
第11回	儒家の哲学と道家の哲学の異同	テキスト 162頁～173頁
第12回	「西田哲学」の主張について	テキスト 174頁～179頁
第13回	儒教哲学における実践(家庭編)	テキスト 180頁～192頁
第14回	(承前) (地域社会編く一)	テキスト 193頁～203頁
第15回	(承前) (地域社会編く二)	テキスト 204頁～210頁

■履修上の注意

出席は重視する。理由なく欠席・遅刻の多い者(3回以上)の者は成績評価を受ける資格を失う。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退室を命ずる。再試は一回のみ。

■評価方法

成績評価は、筆記試験(60%)、レポート(20%)、出席状況(20%)等を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究一修訂版」明治書院発行

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	法学（日本国憲法含む）		担当教員 （単位認定者）	篠原 章	単位数	2
対象学年	1（後期）	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

日本国憲法・民法・刑法その他の法律を通して、日本はどのような国なのか、どのような国であるべきなのかを理解し、法的考え方を身に付ける。

■授業の概要

法律の基本的な枠組みを知識として得るだけでなく、実際の事例や時事問題をできるだけ提示しながら判例や通説、多数説、少数説の学説を紹介し、どれが正しいのかを考える。また、思考力・文章力を高めるために小論文を課する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	法の特質と機能	法の性質、法体系について予備知識を得ておく。
第2回	憲法の基本原理	国民主権、人権保障及び平和主義について考える。
第3回	国会の地位と機能	権力分立論を予備知識として得ておく。
第4回	内閣の地位と機能	議院内閣制と外国の制度を予備知識として得ておく。
第5回	裁判所の地位と機能	司法の役割と判例を予備知識として得ておく。
第6回	財政、地方自治	財政及び地方自治が民主主義の要であることを考える。
第7回	人権保障の原理	人権保障の意義を考える。
第8回	自由権	自由権の判例を予備知識として得ておく。
第9回	参政権、社会権	参政権及び社会権の判例を予備知識として得ておく。
第10回	民法（財産法）	契約の自由と過失責任主義を予備知識として得ておく。
第11回	民法（家族法）	身近な問題を具体的に考える。
第12回	刑法（役割と基本原則）	刑法が何故に必要なのかを考える。
第13回	刑法（犯罪と刑罰）	犯罪の成立要件と刑罰を考える。
第14回	医療と法	医療過誤の問題を考える。
第15回	国際社会と法	国際法を具体例で考える。

■履修上の注意

- ・教科書、小六法は毎回持参し、板書・口述の内容はノートに整理すること。
- ・小論文・レポートは必ず提出すること。予習・復習は予習に重点をおくこと。
- ・6回以上（公欠を含む）欠席は定期試験の受験資格を失う。

■評価方法

定期試験、小論文、レポート、出席状況を総合的に評価する。
（目安）試験結果70%、小論文・レポート20%、出席状況10%

■教科書

憲法第5版 芦部信喜 高橋和之補訂 岩波書店

■参考書

小型の六法。おすすめは有斐閣「ポケット六法」と三省堂「模範小六法」
担当者作成の教材「新しい人権判例」を配布

科目名	基礎演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	丸井 明美 石川 文江 他	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

建学の精神にのっとり、大学生としての基礎的能力を備え、学習が円滑に行えるための能力を養う。

■授業の概要

建学の精神を理解し、日々の行動に結び付けるようにするとともに、学力として求められる文献検索方法、レポートの書き方や討議の仕方、プレゼンテーションの方法について学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス、基礎演習Ⅰオリエンテーション	
第2回	大学生活の目標を設定 グループワーク	
第3回	建学の精神と実践教育プログラム①学長講話	
第4回	建学の精神と実践教育プログラム②学年目標の発表	
第5回	大学生としての学習・国家試験について	
第6回	建学の精神と実践教育プログラム③環境美化活動について	
第7回	建学の精神と実践教育プログラム④ボランティア活動について	
第8回	学主力育成セミナー① レポートの書き方	
第9回	学主力育成セミナー② 討議の仕方	
第10回	学主力育成セミナー③ プレゼンテーションの仕方	
第11回	学主力育成セミナー④ 演習 1 (図書室の使い方: 文献検索・討議法) グループ研究	
第12回	学主力育成セミナー⑤ 演習 2 (図書室の使い方: 文献検索・討議法) グループ研究	
第13回	学主力育成セミナー⑥ 演習 3 (図書室の使い方: 文献検索・討議法) グループ研究	
第14回	学主力育成セミナー⑦ 演習 4 (図書室の使い方: 文献検索・討議法) グループ研究	
第15回	前期のまとめ	

■履修上の注意

- 1) 96名が一度に行うため、自ら参加する意思をしっかりとって臨むこと。
- 2) 予習・復習については事前に指示するので、準備して授業に臨むこと。

■評価方法

出席時間、授業への参加態度、課題レポート等により総合的に評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)「咸有一徳」、基礎演習テキスト

■参考書

--

科目名	基礎演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	丸井 明美 石川 文江 他	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

建学の精神にのっとり、大学生としての基礎的能力を備え、学習が円滑に行えるための能力を養う。

■授業の概要

国家試験や就職に関する情報を提供するとともに、各自が4年間計画的に学習するための実践的計画が立てられるようにする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期基礎演習Ⅰ オリエンテーション	
第17回	学士力育成セミナー⑧ 演習 5 (図書室の使い方: 文献検索・討議法) グループ研究発表	
第18回	学士力育成セミナー⑨ 演習 6 (図書室の使い方: 文献検索・討議法) グループ研究発表	
第19回	学士力育成セミナー⑩ 文献を活用したテーマ研究 1 グループワーク	文献検索の方法をマスターすること
第20回	学士力育成セミナー⑪ 文献を活用したテーマ研究 2 グループワーク	文献検索の方法を活用すること
第21回	学士力育成セミナー⑫ 文献を活用したテーマ研究 3 グループワーク	収集した文献の要約をして臨むこと
第22回	昌賢祭準備	
第23回	学士力育成セミナー⑬ 文献を活用したテーマ研究 4 グループワーク	
第24回	学士力育成セミナー⑭ 文献を活用したテーマ研究 5 発表	
第25回	キャリアデベロップメント : 基本カードの作成	
第26回	学士力育成セミナー⑮ 看護に関するテーマ研究 1	「看護とは何か」を考え、自己の学習姿勢を見直す
第27回	学士力育成セミナー⑯ 看護に関するテーマ研究 2	
第28回	学士力育成セミナー⑰ 看護に関するテーマ研究 3	
第29回	国家試験対策 No.2 模擬試験	1年次学習の復習
第30回	後期まとめ	

■履修上の注意

- 1) 96名が一度に行うため、自ら参加する意思をしっかりとって臨むこと。
- 2) 予習・復習については事前に指示するので、準備して授業に臨むこと。

■評価方法

出席時間、授業への参加態度、課題レポート等により総合的に評価する。

■教科書

鈴木利定・中田勝(著)「咸有一徳」、基礎演習テキスト

■参考書

科目名	ボランティア活動と自己省察			担当教員 (単位認定者)	足立 勤一 看護学部専任教員	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本学の求めているボランティア活動は「対人支援・援助」のあり方を学ぶための人間学の根本と位置付けている。ここでは、建学の精神に基づき、保健医療福祉に関する諸団体・施設等でのボランティア活動を行い、それらの活動を通して、自己課題を見出し、今後の看護活動に活かしていくことを目標としていく。

■授業の概要

- ・ボランティアの語源や歴史、意義や目的、活動の種類、実践のために必要な知識・技術・態度を学習する。
- ・施設等でのボランティア体験を通して、自己を省察する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 本学のボランティア活動について	ボランティアハンドブックの1～4章の予習・復習
第2回	ボランティア活動とは(GW)	ボランティア活動についての文献学習 テキストP16～90
第3回	ボランティア活動の目指すもの(GW)	
第4回	ボランティア活動の実際に向けてオリエンテーション 【活動カード、記録の書き方、諸注意等の説明】	ボランティア活動に向けての事前準備
第5回	ボランティア活動の計画【年間予定表作成、自己依頼施設選定、事前学習】	
第6回	ボランティア活動の計画【年間予定表作成、自己依頼施設選定、事前学習】	
第7回	医療機関・福祉施設等のボランティアの実際	ボランティアの実際を記録して自己の振り返りを行う
第8回	医療機関・福祉施設等のボランティアの実際	ボランティアの実際を記録して自己の振り返りを行う
第9回	医療機関・福祉施設等のボランティアの実際	ボランティアの実際を記録して自己の振り返りを行う
第10回	医療機関・福祉施設等のボランティアの実際	ボランティアの実際を記録して自己の振り返りを行う
第11回	ボランティア活動を通しての自己省察(GW)	ボランティアの実際を記録して自己の振り返りを行う
第12回	ボランティア活動を通して見出した自己課題発表準備	グループ発表のレジュメ作成
第13回	ボランティア活動を通して見出した自己課題発表準備	グループ発表のレジュメ作成
第14回	ボランティア活動を通して見出した自己課題発表(プレゼングループ発表)	発表を通して感じたこと、自己課題をまとめる(レポート作成)
第15回	ボランティア活動を通して見出した自己課題発表(プレゼングループ発表)	発表を通して感じたこと、自己課題をまとめる(レポート作成)

■履修上の注意

ボランティア活動を積み重ねることによって、自分自身の新たな問題点や課題を発見し、社会に貢献できる看護専門職者として成長して欲しい。

<具体的な履修上の注意>

- ・本学のボランティア活動ハンドブックを良く理解しておくこと。
- ・それぞれのボランティア施設についてよく調べてから活動していくこと。
- ・既修の知識や技術をもとにボランティアが実践できるよう復習しておくこと。

■評価方法

ボランティア体験およびグループワークにおける態度・記録等、まとめたレポートの内容に基づき評価していく。

①平常点(授業への取り組み、ボランティア体験の態度・記録等)50% ②グループ発表20% ③個人課題レポート30%

■教科書

鈴木利定監修 足立勤一・森慶輔編集 「ボランティア活動ハンドブック」 第6版
岡本栄一監修 守本他編著「ボランティアのすすめ 基礎から実践まで」 ミネルバ書房

■参考書

必要に応じて適宜提示する

科目名	論語			担当教員 (単位認定者)	単位数	1
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

後日配布

■授業の概要

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

■履修上の注意

■評価方法

■教科書

■参考書

科目名	人間の心理			担当教員 (単位認定者)	清水 敦彦	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択		必修

■授業の到達目標・期待される学習効果

心理学は古くて新しい学問といわれているが、それが単にめずらしいというだけでなく、今日では人間の本質にせまる基本的な学問となり、「人間性の科学」となってきた。本講では人間理解の方法として心理学を学び、通常人の心理ばかりでなく、病む人々の心理や病人をかかえる家族の心理を理解できる看護師、更にはチーム医療を重視する今日の時代にあつては、他の医療従事者の心理や協力の在り方を理解できる看護師の育成にある。

■授業の概要

看護師になろうという明確な目的をもった学生であることを自覚させ、看護に関する例や話題を取り入れ、演習し、「人間の心理を理解するための基礎」として、個人と集団の心理を理解するための基礎、すなわち前編では個人の心理や行動について、ついで個人と個人との関係に付いて学び、人間の心理や行動についてのしくみとその背景、人間関係の基本的な事柄などを学び、そして後編では臨床心理学や健康心理学、行動分析という、実際の看護場面で実践的に利用されている心理学の方法や考え方についてまで学習し、看護に十分応用できる学力を身につけさせる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション ◆感覚・知覚の心理	WORRSの提出
第2回	◆記憶の心理	演習課題：私の生活時間
第3回	◆感情・動機の心理：	WORRSの提出
第4回	◆性格・知能の心理	演習課題
第5回	◆発達心理1 ・乳幼児期、児童期 ・乳幼児期の心理的問題 ・児童期の心理的問題 ・青年期	WORRSの提出
第6回	◆発達心理2 ・成人期 老年期	エゴグラム演習
第7回	◆社会・集団の心理	WORRSの提出
第8回	◆医療現場での人間理解 ・カウンセリングと心理療法 ・まとめ	演習課題：「看護師として歩む自分を考える」作文提出

■履修上の注意

心理学に関心を持ち、課題に対して真剣に取り組み、提出物は必ず提出すること。

■評価方法

出席状況8%、授業態度12%、提出物の状況10%、期末テスト70%の総合点で評価する。

■教科書

長田久雄編集：看護学生のための心理学，医学書院，2002.

■参考書

講義の中で適宜提示する。

科目名	論理学			担当教員 (単位認定者)	篠原 章	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

正しい思考の形式及び法則を学び、正しく考え、真の知識に到達するための基本を習得する。

■授業の概要

この講義は、形式論理学を学ぶものです。最初にアリストテレス以来の三段論法を中心とする伝統的論理学を学び、次に現代の命題論理を中心とする記号論理学を学びます。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	言語と論理 論理学の位置と課題	教科書の予習整理
第2回	概念と定義 内包と外延	教科書の予習整理
第3回	判断と命題	教科書の予習整理
第4回	直接推理①	教科書・配布資料の復習整理
第5回	直接推理②	教科書・配布資料の復習整理
第6回	直接推理③	教科書・配布資料の復習整理
第7回	間接推理①	教科書・配布資料の復習整理
第8回	間接推理②	教科書・配布資料の復習整理
第9回	間接推理③	教科書・配布資料の復習整理
第10回	命題論理①	教科書・配布資料の復習整理
第11回	命題論理②	教科書・配布資料の復習整理
第12回	命題論理③	教科書・配布資料の復習整理
第13回	科学の論理(演繹法・帰納法)	参考書・資料の復習整理
第14回	論証の批判と検討①	参考書・資料の復習整理
第15回	論証の批判と検討②	参考書・資料の復習整理

■履修上の注意

板書・口述内容は定期試験に重要なのでノートに整理すること。小論文、レポートは必ず提出すること。予習復習は、予習に重点を置く。6回以上(公欠含む)欠席は、定期試験の受験資格を失う。

■評価方法

定期試験、小論文、レポート、出席状況を総合的に評価する。(目安)試験結果70%、小論文・レポート・出席30%

■教科書

「論理学入門」 千葉茂美・東千尋・若山玄芳著、学陽書房

■参考書

講義中に適宜紹介する。

科目名	社会学			担当教員 (単位認定者)	笹澤 武	単位数	1
対象学年	1(後期)	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

看護師国家試験取得、社会生活における知識、実践を身につけることを目的としている。

■授業の概要

学説、理論を十分に踏まえながら、現代社会の主に医療現場で看護師に求められている役割を分析しながら「授業計画」に沿って、問題点を社会的に追求する事を学習の目的とする

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	社会学の新たな展開(ガイダンスも含む)	社会学の意味
第2回	医療という社会的行為	医療活動における医療行為
第3回	家族とその変化	家族の構造と機能
第4回	地域社会と都市	都市社会と農村社会
第5回	看護が展開される場面	看護師と病院
第6回	看護という仕事	看護をとり包む仕事
第7回	少子高齢化社会と福祉	少子高齢化社会の現状分析
第8回	現代社会の特徴(まとめも含む)	現代社会の問題点と課題

■履修上の注意

配布資料、要点は板書するのでノートをとること。授業内容がシラバスと異なることもあるが、自己学習にも熱心に取組むことが必要条件である。

■評価方法

授業態度10%、出席状況10%、ミニテスト10%、テスト70%により総合評価する。

■教科書

授業に応じて資料を配布する。

■参考書

必要に応じて適宜指示すが、参考書としては、中野卓 北原龍二編著 系統看護学講座基礎5『社会学』医学書院 1,890円

科目名	化学			担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①さまざまな物質の構成や状態、性質を理解できる。
 ②化学反応の種類や表し方を理解し、量的な関係が把握できる。
 ③今後の生化学・栄養学・医学・薬学等の学習について基礎ができています。

■授業の概要

化学の基本的な考え方を理解し、看護学の関連専門分野の生化学、栄養学等の学習の基礎となる。具体的には、よく使われる元素記号や化学式を学習し、化学式をもとに基本的な反応(中和、酸化還元、気体の発生、沈殿の生成など)を理解する。さらに、医学、薬学、栄養学で用いられている物質の性質を理解するための基礎を養う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	はじめに I 物質の構成(1) 1 物質の構成 2 粒子の結合	教科書 p14～37
第2回	I 物質の構成(2) 3 粒子の相対質量と物質量	教科書 p38～43
第3回	II 物質の状態 1 物質の三態 2 気体 3 溶液	教科書 p46～65
第4回	III 物質の反応(1) 1 化学反応と熱・光 2 化学反応の速さと化学平衡 3 酸と塩基の反応	教科書 p66～85
第5回	III 物質の反応(2) 4 酸化と還元 5 電池と電気分解	教科書 p86～105
第6回	IV 無機化合物 1 非金属元素とその化合物 2 典型金属元素とその化合物 3 遷移元素とその化合物 4 金属イオンの反応	教科書 p106～159
第7回	V 有機化合物 1 有機化合物の分類と分析 2 脂肪族化合物 3 芳香族化合物	教科書 p160～193
第8回	VI 人間生活と物質 1 天然有機化合物 2 生活と物質 まとめ	教科書 p194～209 p220～227

■履修上の注意

高校で化学を履修していないことを前提に授業を行う。予習として教科書を読み、内容の全体的なイメージをもって授業を聞くようにすることが望ましい。復習としては授業内容を自分で整理して理解し、覚えなければならないことはしっかり覚えるようにすること。分からないことは授業中に随時質問をすること。授業中に質問ができなかったときは、授業終了後または次の時間の最初に質問するようにして、分からないことをそのままにしておかないようにすること。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

フォトサイエンス 化学図録 数研出版

■参考書

科目名	物理学			担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用してヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
 ②運動の表し方を知り、式やグラフで運動を表すことができる。
 ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し、説明できる。
 ④医療で実際に起こりうる事象、使用する器具類に応用されている物理学を知り、説明できる。

■授業の概要

医療や看護で実際に起こりうる事象や実際に使用する機器類を想定し、そこに用いられている物理的な理論や技法を取り上げ、看護を学ぶ上で基礎となる物理学を学ぶ
 主な内容は「力・圧力」「運動」「熱」「光と音」「電磁気」「原子と放射線」

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	Iはじめに II 力とつりあい(1) 1 力の表し方とベクトル 2 力のつりあいと作用・反作用 3 圧力と浮力	教科書 p2~29 問題 10~13
第2回	II 力とつりあい(2) 4 大きさのある物体にはたらく力 5 力のモーメント 6 てこ 7 重心 8 仕事とエネルギー	教科書 p30~47 問題1~9, 14~18
第3回	III 動いている物体の力学(1) 1 速度と加速度 2 等加速度運動・自由落下 3 運動の法則 4 力積と運動量	教科書 p52~62 問題1, 2, 5, 8, 9, 13~15, 17
第4回	III 動いている物体の力学(2) 6 等速円運動 7 運動エネルギー 8 流体の運動	教科書 p63~76 問題3, 4, 6, 7, 10~12, 16
第5回	IV熱 1 温度と熱 2 物質の状態変化 3 熱の伝わり方 4 熱膨張 5 内部エネルギー 6 熱機関と熱効率 7 エントロピー	教科書 p80~107 問題1~11
第6回	V 振動、光そして音 1 振動 2 波の性質 3 音波 4 光波	教科書 p112~153 問題1~12
第7回	VI 電気と磁気 1 電気 2 電流 3 磁気 4 交流	教科書 p156~183 問題1~15
第8回	VII 原子と放射線 1 原子の構造 2 原子の崩壊 3 放射線 まとめ	教科書 p186~195 問題1~7

■履修上の注意

高校で物理を履修していないことを前提に授業を行う。
 予習として教科書を読み、分からないところを重点的に授業で聞くようにすることが望ましい。復習としては授業で扱えなかった教科書の問題を解いておくこと。
 分からないところは授業中に随時質問をしてよい。授業中にできなかつたときは、授業終了後または次の時間の最初に質問するようにして、分からないことをそのままにしておかないようにすること。

■評価方法

筆記試験 100%

■教科書

看護にいかす物理学 第3版 前田昌信著 医学書院

■参考書

科目名	情報処理演習			担当教員 (単位認定者)	藤本 吉	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①パソコンの基本的な操作を理解する。
 ②Microsoft Wordでレポート等の文書を作成できる。
 ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。

■授業の概要

授業を通しパソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようにすることを目標とする。他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordとExcelを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多くある。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/(概論) オリエンテーションと初めてのパソコン操作	教科書 2～18ページ
第2回	(概論) インターネットの利用とセキュリティ	資料を別途配布
第3回	(Word) キーボードの操作と日本語等の入力	教科書 20～33ページ
第4回	(Word) 文章の入力と保存・印刷	教科書 34～47ページ
第5回	(Word) 各種の書式設定	教科書 50～58ページ
第6回	(Word) 表を含む文章の作成	教科書 62～71ページ
第7回	(Word) 図や写真を含む文書の作成	教科書 72～89ページ
第8回	(Excel) Excelの基本操作	教科書 92～103ページ
第9回	(Excel) 表の作成	教科書 104～127ページ
第10回	(Excel) 表の書式設定や各種機能	資料を別途配布
第11回	(Excel) グラフの作成	教科書 129～145ページ
第12回	(Excel) 関数の基本	教科書 148～177、205～209ページ
第13回	(Word・Excel) WordとExcelの連携	資料を別途配布
第14回	レポート作成実習	
第15回	レポート作成実習	

■履修上の注意

なるべく休まないこと
 USBメモリを用意すること

■評価方法

筆記試験 (論述 客観) ■レポート 口頭試験 実地試験 その他
 成績配分レポート100%

■教科書

パソコン教科書 Word/Excel/Power Point2007 Windows Vista対応 Office 塾著 東京法令出版

■参考書

なし

科目名	統計の基礎			担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

近年のコンピュータの発達に伴い、看護学の分野で統計的手法を用いた研究が多くなり、こうした手法を理解することは今後ますます重要になってきている。看護学研究を行う上での分析手法である統計学を習得し、研究を円滑に行っていく力を身につけることを到達目標とする。

■授業の概要

統計学の基礎的な理論について学習し、さらに看護学に関連するデータを用いて、演習形式で学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	高校数学の復習
第2回	データの性質・収集・編成 分析目的に合ったデータを収集・編成するための基礎知識を学習する。	板書内容を復習
第3回	グラフ データの持つ情報を効果的に表現するためのグラフの選択方法と作成方法について学習する。	教科書p8～p.34
第4回	分布の代表値・散布度 平均値や分散・標準偏差等について学習する。	教科書p.36～p.43
第5回	母集団と標本 母集団と標本の関係、無作為抽出法について学習する。	教科書p.59～p.62
第6回	パソコン入門(1)	教科書p8～p.34
第7回	パソコン入門(2)	教科書p8～p.34
第8回	パソコン入門(3)	教科書p8～p.34
第9回	散布図と相関係数	教科書p.55～p.59
第10回	母平均値の差の検定(1)	教科書p.150～p.156
第11回	母平均値の差の検定(2)	教科書p.150～p.156
第12回	母比率の差の検定(1)	教科書p.157～p.162
第13回	母比率の差の検定(2)	教科書p.157～p.162
第14回	回帰分析(1)	教科書p.169～p.199
第15回	回帰分析(2)	教科書p.169～p.199

■履修上の注意

出席を重視する。積極的に授業に参加すること。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

--

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	生活科学			担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

「生活を科学する」習慣を身につけることにより、より豊かで賢い日常生活を営めるようになること。また、「生活文化」の知識をコミュニケーションに活かすことができるだけでなく、国際人として日本の文化を語れる人材となることをめざす。

■授業の概要

われわれは誰もが家庭生活や日常生活を送っている。本講では、一見当たり前で過ごしている日常生活そのものの本質を知るとともに、生活用品・用材の基本構造や各生活事象の背景にある原理原則について解説する。さらに生活を「文化」の側面からとらえ、衣食住における日本独自の文化についても言及する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス：「生活を科学する」とは	身近な生活事象に目を向ける
第2回	「生活科学チェックテスト」(生活者としての習熟度チェック)	生活事象の原理原則について考える
第3回	家庭生活の経営と管理：家族・家庭生活 生活設計 生活時間	自分の家族について深く考える
第4回	家庭生活の経営と管理：ライフコースの作成	自分の一生(案)をとおして、人の一生について深く考える
第5回	家庭生活の経営と管理：家庭経済と消費生活 消費生活の課題	自分と家族の消費生活を見直す
第6回	被服生活：被服の役割と機能	どのような衣服があり、どのように用いられているかを調べる
第7回	被服生活：被服の素材	どのような繊維製品が、どんなところで用いられているかを調べる
第8回	被服生活：被服の選択・品質表示 被服と皮膚衛生	自分や身近な人の衣服のサイズや表示を確認する
第9回	被服生活：被服の管理	洗濯を実践し、学んだ事柄を活用する
第10回	被服生活・住生活：汚れを落とすということについて(洗浄のメカニズム)	洗剤などの品質表示を確認する
第11回	住生活：快適な室内環境 生活行為と生活空間 環境問題 地域社会と生活	自分の部屋を中心に、室内の環境を見直す
第12回	住生活：住居の安全と管理 バリアフリー・ユニバーサルデザイン	バリアフリー構造とユニバーサルデザインの物品を調べる
第13回	生活文化：日常生活と四季(植物・生物) 年中行事 行事食 等	日本の生活文化をコミュニケーションに活用する
第14回	生活文化：日常生活の中の日本の文様	衣服や日用品に使われている様々な文様を調べる
第15回	まとめ	学際領域としての生活科学を知る

■履修上の注意

日常生活を自力で営めるようになっておくこと。また、食材や生活用具・用材などについて知らない講義で扱っている事柄を十分に理解できないので、常に身の生活に関する事物に興味を持つこと。講義は各自メモをとりながら聴き、学んだ事項について各家庭で実践したり、確認したりしておくこと。

■評価方法

定期試験の結果(50%)と提出物(50%)を総合して評価する。

■教科書

佐々井啓監修『家政学概論』(共栄出版)

■参考書

科目名	道徳教育研究			担当教員 (単位認定者)	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

後日配布

■授業の概要

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

■履修上の注意

■評価方法

■教科書

■参考書

科目名	基礎英語			担当教員 (単位認定者)	飯野 順子	単位数	1
対象学年	1 (前期)	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択		必修

■授業の到達目標・期待される学習効果

- 1) 英文の情報を早く正確に把握できる。
- 2) 医療関連の記事を理解できる。
- 3) 入学までに学んできた英語力で意思疎通を図れる。

■授業の概要

医療関連の記事をグループで担当し発表する形式を進める。
理解を深めるために新聞記事の使用や文法事項の復習をする。
英語による基礎的コミュニケーション技術を身に着けるため、聴き取り訓練や役割練習などを取り入れる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	Vaccines: Chapter1 数字の示す内容を読み取る。 医学用語の略語に慣れる。	復習: 単語プリント 1
第2回	Prescriptions I: Chapter2 薬の服用についての文を読み、命令形の復習と習得をはかる。	予習: 単語プリント 2 復習: 命令文作成
第3回	Prescriptions II: Chapter4 表で薬の種類、服用回数、服用量を把握する。 箇条書きの文を読み、注意事項を正確に理解する。	予習: 単語プリント 3 復習: 注意事項のまとめ
第4回	Allergies I: Chapter3 タイトルの書き方やパラグラフについて指摘し、英文記事の構造について学ぶ。 Hay Feverの症状を読み取る。	予習: 単語プリント 4 復習: 症状のまとめ
第5回	皮膚、目の症状の表現を覚える。会話と聴き取り中心で行う。	予習: 単語プリント 5 復習: 頭痛の症状の暗記
第6回	Allergies II: Chapter10 各パラグラフの要点をつかむ。症状についての会話で、単語数を増やす。	予習: 単語プリント 6 復習: 食物不耐性とは?
第7回	Diabetes: chapter7 長い主語に慣れる。臓器の名前 (p.75) を覚える。医学用語の接頭辞と接尾辞にも触れる。	予習: 単語プリント 7 復習: 臓器の名前
第8回	Arterial Diseases: Chapter8 原因、結果、対策を読み取る。 Vital signs 測定の会話。	予習: 単語プリント 8 復習: p.41 和文英訳 1, 2
第9回	Respiratory Diseases I: Chapter6 記事内容についての英問英答。検査用語を覚える。	予習: 単語プリント 9 復習: 感染防御の方策を書く。
第10回	Respiratory Diseases II: Flu Shots (pp.64-65) 記事内容についての英問を聴いて英答。	予習: 単語プリント 10 復習: 四つの数字の意味
第11回	Sports Related Injuries: Chapter11 CTS とは何か、それが起きる仕組みと症状を読み取る。身体部位 (p.74) の単語を増やす。	予習: 単語プリント 11 復習: 身体部位の暗記
第12回	筋骨格の症状 (p.70) を覚え、身体部位の単語と組み合わせ、会話を練習する。	予習: 単語プリント 12 復習: p.51 聴き取り
第13回	Sports Related Injuries: Chapter12 CTSについての会話から、その原因、症状、対策を聞き取る。記事の要旨を箇条書きにする。	予習: 単語プリント 13 復習: p.57 英問 1, 2
第14回	Sleeping Problems: Chapter5 内容についての英問英答。分数、小数点、パーセントの表現方法。	予習: 単語プリント 14 復習: p.25 英問に答える。
第15回	The Change of Life: Chapter13 更年期とHRTについて学ぶ。グラフや表から統計的な数値を把握する。	予習: 単語プリント 15 復習: 試験準備

■履修上の注意

二回目以降、単語テストを行い出席確認をするので予習を済ませて授業に臨んで下さい。
ペアワークや聴き取りは英語を話したり聞いたりする貴重なチャンスと考え、口と耳を十分働かせて下さい。
担当者は、英文の字面だけ訳すのではなく自分の言葉でわかりやすく伝える工夫をして下さい。

■評価方法

授業態度、出席状況、定期試験により総合的に判断する。

■教科書

English for Medicine (KINSEIDO)

■参考書

科目名	医療英語			担当教員 (単位認定者)	飯野 順子	単位数	1
対象学年	1(後期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

臨床場面での初級上レベルの会話ができる。
状況に応じた基本表現をマスターする。
英会話を学びながら、看護業務について知ることができる。

■授業の概要

音声に重点を置く。
臨床場面での会話を聴いたり話したりして、特殊な用語や表現に慣れる。
情報収集のための質問形式や説明、指示のための命令形などを中心に練習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital	復習: 診療科名を覚える。
第2回	Lesson 2 RegistrationI	予習: 診療申込み票の項目 復習: 役立つ表現を覚える。
第3回	Pets have Role in Patient Therapy	予習: 記事を読む。 復習: 音読
第4回	Lesson 3 Checking the Registration Card	予習: 15ページの1V 復習: 役立つ表現を覚える。
第5回	Lesson 4 Finding the Way	予習: 21ページの1V 復習: Useful Expressions
第6回	Lesson 5 Personal History	予習: Vocabulary p.27 復習: Useful Expressions
第7回	Lesson 6 Daily Activity	予習: Vocabulary p.32 復習: Useful Expressions
第8回	Lesson 7 More about Daily Activity	予習: Vocabulary p.37 復習: Useful Expressions
第9回	The Old Time Pain Reliever on p.33	予習: Notes 復習: 和訳
第10回	Lesson 8 Asking about Symptoms	予習: Vocabulary p.42 復習: 同上
第11回	Lesson 9 More about Symptoms	予習: Expressions on p.42 復習: Body Parts on p.44
第12回	Music During Surgery ? on p.50	予習: Notes 復習: 和訳
第13回	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight	予習: Vocabulary 復習: Expressions
第14回	Lesson 11 Laboratory Specimens	予習: Vocabulary 復習: Expressions
第15回	Lesson 12 Taking Medicines	予習: Vocabulary 復習: Expressions

■履修上の注意

授業中はお互いに練習台になって、役割練習をしっかりとやること。

■評価方法

出席、授業態度、定期試験で総合的に評価する。

■教科書

やさしい看護英語 SEIBIDO

■参考書

科目名	スポーツ科学原理		担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	必修

■授業の到達目標・期待される学習効果

自信の健康の大切さを確認し、対象者の健康の保持増進及び生活の快を提供できる支援者として、現場で実践できる自信を持つことができる。

■授業の概要

本科目の基礎知識(心・体・医)を理解し、技術の体験を通して各自の健康管理と生活意欲の向上を図り、人間関係の円滑化・コミュニケーション能力を身につけ、活用できるようにする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション(授業の進め方及びコミュニケーショントレーニング)	自分の心を解き放つ方法を学ぶ。 (快い雰囲気作り)
第2回	スポーツと健康(スポーツとからだの働き)	体の機能と構造の知識を身につけ、運動の身体に及ぼす影響について学ぶ。
第3回	スポーツと健康(身体調整法・ストレッチング)	ストレッチングを正しく行う方法を体得し、リハビリとの密接な関係を知る。
第4回	スポーツと健康(スポーツの外傷と障害)	代表的なスポーツ外傷と障害を知り、怪我の起こる要因を把握する。
第5回	スポーツと健康(外傷・障害の予防と対応)	スポーツ外傷と障害の予防と治療の方法を学ぶ。
第6回	運動の習慣づけ(筋力トレーニング)	効果的に筋肉を作り上げるポイントを学ぶ。
第7回	運動の習慣づけ(ウォーキングの実際)	基本的なウォーキングと目的別のウォーキング方法を学ぶ。
第8回	スポーツコミュニケーション(まとめと評価)	スポーツを通して円滑な人間関係を築くことを学ぶ。

■履修上の注意

真摯な態度での受講を求めます。

■評価方法

筆記試験70%・受講態度20%・出席状況10%

■教科書

資料プリントで対応。

■参考書

随時検討する。

科目名	スポーツ演習			担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数	1
対象学年	1(後期)	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択		選択

■授業の到達目標・期待される学習効果

明るく豊かな人生を送るうえで、生涯にわたって運動やスポーツが必要であるという認識を持ち、健康の保持増進や体力向上を目指し、日常生活のなかで継続的に行えるようになる。

■授業の概要

運動やスポーツの楽しさと必要性を十分に理解し、その楽しみ方を身につけこれからの社会生活を充実して、自信を持って生きていくための「生き甲斐」として、適切に行われる運動スポーツを体験する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション(授業の進め方の説明及びグループづくり) コミュニケーションゲーム	集団交流ゲームで楽しい雰囲気をつくり、相互の一体感を感じる。
第2回	A班 ソフトボール ・ B班 バレーボール	(ソフトボール) 投げる・打つ・捕る・走るの基本技術を習得する。
第3回	A班 ソフトボール ・ B班 バレーボール	(ソフトボール) 安全に留意し、試合を実践し集団技能を高める。
第4回	A班 バレーボール ・ B班 ソフトボール	(バレーボール) 基本技術の練習を通し基本動作を学ぶ。
第5回	A班 バレーボール ・ B班 ソフトボール	(バレーボール) いろいろなポジションでのプレイを体験する。
第6回	A班 バasketボール・ B班 フットサル	(Basket) 基礎・基本の技術を理解し楽しさを体験する。
第7回	A班 バasketボール・ B班 フットサル	(Basket) 連携プレーでゲームが進められるようにする。
第8回	陸上 持久走(A・B合同)	各自が具体的な目標記録を掲げ、練習する。
第9回	A班 フットサル ・ B班 Basketボール	(フットサル) 攻守における個人の基本技術を学ぶ。
第10回	A班 フットサル ・ B班 Basketボール	(フットサル) 互いに協力して練習やゲームをする。
第11回	A班 バドミントン ・ B班 インディアカ	(バドミントン) 基礎知識を学習し、基本技術を身につける。
第12回	A班 バドミントン ・ B班 インディアカ	(バドミントン) 正しいグリップやフォームを身につけ楽しさを味わう
第13回	A班 インディアカ ・ B班 バドミントン	(インディアカ) インディアカ羽根に慣れ、ルールを理解する。
第14回	A班 インディアカ ・ B班 バドミントン	(インディアカ) ローテンション方式に慣れ、ゲームを楽しむ。
第15回	種目別大会を実施(まとめ)	学習成果を発揮し、互いに協力し合い大会運営をする。

■履修上の注意

自分の能力・適正や興味・関心をしっかり見つめ、授業のルール、マナーを守り、自ら学ぶ態度での授業参加を求めます。

■評価方法

授業態度60%・実技能力30%・出席状況10%

■教科書

■参考書

科目名	人体構造機能学Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べることができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	解剖学・生理学とは	第1章 P.2～18
第2回	解剖学的用語	第1章 P.7～18
第3回	ホメオスタシスとフィードバック機構	第1章 P.15～18
第4回	細胞の構造と機能	第2章 P.20～53
第5回	人体を構成する4種の組織	第2章 P.42～53
第6回	体内の膜と皮膚	第3章 P.54～73
第7回	体熱産生と体温	第3章 P.68～73
第8回	第1章、2章、3章の確認テストと解説	第1章 第2章 第3章
第9回	骨と骨格	第11章 P.268～275
第10回	頭蓋、体幹の骨格、体肢の骨格	第11章 P.276～288
第11回	関節の構造と機能	第11章 P.289～293
第12回	筋の種類と機能	第12章 P.294～303
第13回	骨格筋の解剖生理	第12章 P.304～315
第14回	第11章、12章の確認テストと解説	第11章 第12章
第15回	筋、骨格筋系の人体模型及び顕微鏡観察	第11章 第12章

■履修上の注意

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

■教科書

(教科書) 林正健二編集：人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
(教科書に沿ったテキスト) 林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集：カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	人体構造機能学Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	血液の成分と物理化学的特性	第4章 P.74～89
第2回	血漿・血球の機能	第4章 P.81～89
第3回	凝固と線溶	第4章 P.84～89
第4回	第4章の確認テストと解説	第4章
第5回	心臓の構造	第5章 P.90～97
第6回	心臓の機能	第5章 P.97～100
第7回	血管の形態と機能	第5章 P.100～115
第8回	リンパ系の器官と機能	第5章 P.116～119
第9回	第5章の確認テストと解説	第5章
第10回	呼吸器系の構造と機能	第6章 P.120～130
第11回	肺の名称と肺胞の構造と機能	第6章 P.131～136
第12回	呼吸のプロセス	第6章 P.137～144
第13回	呼吸の調節	第6章 P.145～149
第14回	第6章の確認テストと解説	第6章
第15回	血液、循環器系、呼吸器系の人体模型及び顕微鏡観察	第4章、第5章、第6章

■履修上の注意

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

■教科書

- 1) 林正健二編集：人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
- 2) 林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集：カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	人体構造機能学Ⅲ			担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べることができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	食欲の調節機構	第7章 P.150～153
第2回	口腔の構造と機能	第7章 P.154～158
第3回	咽頭・食道の構造と機能	第7章 P.159～162
第4回	胃の構造と機能	第7章 P.163～166
第5回	小腸の構造と機能	第7章 P.166～168
第6回	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能	第7章 P.169～176
第7回	糖質・脂質・蛋白質・ビタミンの消化と吸収	第7章 P.177～180
第8回	排泄 大腸の構造と機能	第7章 P.181～185
第9回	第7章の確認テストと解説	第7章
第10回	腎臓の構造と機能	第8章 P.186～192
第11回	尿の生成、血液成分の調節	第8章 P.192～202
第12回	尿管・膀胱・尿道の構造と機能	第8章 P.203～206
第13回	排尿の生理	第8章 P.207～209
第14回	第8章の確認テストと解説	第8章
第15回	消化器系及び泌尿器系の人体模型及び顕微鏡観察	第7章、第8章

■履修上の注意

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

■教科書

- 1) 林正健二編集：人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
- 2) 林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集：カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	人体構造機能学Ⅳ			担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数	1
対象学年	1(後期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べることができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	神経組織の構造と機能に基づく分類 神経組織の構造と機能(神経細胞)	第13章 P.316～320
第2回	神経組織の構造と機能(情報の伝達・興奮の伝導・シナプス伝達・反射)	第13章 P.320～326
第3回	中枢神経系の構造と機能(大脳・間脳・脳幹)	第13章 P.327～334
第4回	中枢神経系の構造と機能(小脳・脊髄・中枢神経系を保護する組織、伝導路)	第13章 P.334～340
第5回	末梢神経系の構造と機能(脳神経)	第13章 P.341～343
第6回	末梢神経系の構造と機能(脊髄神経・体性神経系)	第13章 P.343～346
第7回	末梢神経系の構造と機能(自律神経系) 生体のリズム	第13章 P.347～354
第8回	第13章の確認テストと解説	第13章
第9回	感覚器の種類と特徴	第14章 P.356～359
第10回	視覚・聴覚の構造と機能	第14章 P.360～
第11回	平衡覚器の構造と機能 嗅覚と嗅覚受容器の構造と機能	第14章 P.374～378
第12回	体性感覚器の構造と機能 内臓感覚器の構造と機能	第14章 P.379～385
第13回	第14章の確認テストと解説	第14章
第14回	神経系と感覚器系の人体模型及び顕微鏡観察①	第13章 第14章
第15回	神経系と感覚器系の人体模型及び顕微鏡観察②	第13章 第14章

■履修上の注意

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

■教科書

- 1) 林正健二編集：人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
- 2) 林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集：カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	人体構造機能学V		担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数	1
対象学年	1(後期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 看護の対象となる人間を理解するための基礎的な知識として、人体の構造と機能を理解できる。
2. 人体の構造と機能を看護の視点で系統的に捉えることができる。
3. 看護の対象者の構造と機能について述べるができる。

■授業の概要

1. 看護の視点で人体の構造と機能を理解できるようにする。
2. 日常生活を送る上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかを理解できるようにする。
3. 正常な人体について理解し、疾病によって人体が受ける変化を学習するための土台となるようにする。
4. 看護に応用できるような抽出眼を養えるようにする。
5. 自己学習で振り返り、繰り返し学習することで知識を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	内分泌系とホルモンの作用機序	第9章 P.210～214
第2回	脳にあるホルモン分泌器官	第9章 P.215～221
第3回	甲状腺・上皮小体のホルモンの機能	第9章 P.222～225
第4回	副腎・膵臓・消化管のホルモンの機能	第9章 P.226～241
第5回	第9章の確認テストと解説	第9章
第6回	生殖と生殖器の概念と特徴	第10章 P.242～249
第7回	女性生殖器の構造と性周期	第10章 P.249～255
第8回	妊娠と出産	第10章 P.255～261
第9回	男性生殖器の構造と機能	第10章 P.262～267
第10回	第10章の確認テストと解説	第10章
第11回	非特異的生体防御機構 特異的生体防御機構	第15章P.386～390
第12回	免疫とアレルギー	第15章P.395～398
第13回	第15章の確認テストと解説	第15章
第14回	内分泌系、生殖器系、免疫系の人体模型及び顕微鏡観察	第9章 第10章 第15章
第15回	解剖見学	

■履修上の注意

- 1) 教科書を必ず読んで講義に参加すること。テキストで予習をすること。
- 2) 講義毎に指定する課題レポート(主にスケッチ、まとめ)を次回講義までに提出すること。
- 3) 確認テスト(テキスト内から出題)を必ず受けること。

■評価方法

定期テスト、課題レポート、確認テスト、授業態度、出席状況により、総合的に評価する。

■教科書

- 1) 林正健二編集：人体の構造と機能—解剖生理学、メディカ出版
- 2) 林正健二編集：イメージできる解剖生理学改訂2版、ジーサブリ編集委員会編

■参考書

坂井建雄編集：カラー図鑑 人体の正常構造と機能全10巻縮刷版、日本医事新報社

科目名	疾病治療総論			担当教員 (単位認定者)	川手 進, 他	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

疾病の原因や発生病理、形態機能及び代謝変化の原理を理解し、回復促進のための主な治療を理解することを目的とする。

■授業の概要

疾病の発生機序と人体に及ぼす影響を学び、回復を助けるための治療方法として、リハビリテーション、放射線療法、食事療法、手術療法などについて学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス、疾病の成り立ち	
第2回	細胞・組織に生じる変化1 代謝障害	
第3回	細胞・組織に生じる変化2 循環障害	
第4回	細胞・組織に生じる変化3 炎症と免疫、膠原病	
第5回	細胞・組織に生じる変化4 腫瘍	
第6回	個体の変化に影響する条件1 先天異常	
第7回	個体の変化に影響する条件2 老化のメカニズム	
第8回	生命の危機的状況 ショック、火傷、熱傷、DIC・MOF、死の徴候	
第9回	手術療法1 全身麻酔	
第10回	手術療法2 手術療法とは①	
第11回	手術療法3 手術療法とは②	
第12回	リハビリテーション1 理学療法の基本	
第13回	リハビリテーション2 理学療法の実際	
第14回	リハビリテーション3 その他のリハビリテーション	
第15回	放射線治療 まとめ	

■履修上の注意

- 1) 本講義は概論的内容であるため、各疾患に関して学習するときのベースとなる内容であることを十分理解して取り組むこと。
- 2) オムニバス形式であるため、各授業ごとにノートを整理し、各自が内容を関連付けて学習すること

■評価方法

出席時間・小テスト・筆記試験の結果により評価する

■教科書

ナーシンググラフィカ③病態生理学 メディカ出版、系統別看護学講座別巻臨床外科総論、リハビリテーション看護医学書院

■参考書

科目名	疾病・治療論各論I			担当教員 (単位認定者)	浜田 邦弘, 栗原 卓也, 他	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

専門科目を学習するに当たり、そのベースとなる各種疾患・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得することを目標とする

■授業の概要

消化器系・腎泌尿器系・内分泌系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス、消化器系疾患の理解と治療1: 食道・胃の疾患の治療①	
第2回	消化器系疾患の理解と治療2: 食道・胃の疾患の治療②	
第3回	消化器系疾患の理解と治療3: 肝臓・胆嚢の疾患と治療	
第4回	消化器系疾患の理解と治療4: 腸の疾患と治療①	
第5回	消化器系疾患の理解と治療5: 腸の疾患と治療②	
第6回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 1 腎機能障害のある疾患とその治療①	
第7回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 2 腎機能障害のある疾患とその治療②	
第8回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 3 人工透析、腎臓の手術	
第9回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 4 泌尿器系の疾患と治療① 前立腺の疾患	
第10回	腎泌尿器系疾患の理解と治療 5 泌尿器系の疾患と治療② その他の疾患	
第11回	内分泌系疾患と治療1 病態生理の理解と主な治療① パセドウ病・原発性アルドステロン症等	
第12回	内分泌系疾患と治療2 病態生理の理解と主な治療② 副腎脂質ホルモン異常な	
第13回	内分泌系疾患と治療3 病態生理の理解と主な治療③ 糖尿病	
第14回	内分泌系疾患と治療4 病態生理の理解と主な治療④ 脂質代謝異常、痛風等	
第15回	内分泌系疾患と治療5 病態生理の理解と主な治療⑤ その他の代謝異常 まと	

■履修上の注意

1) 人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。

■評価方法

出席状況、小テスト、筆記試験の結果を総合的に判断し評価する。

■教科書

系統看護学講座 成人看護学⑤消化器、成人看護学⑦腎・泌尿器、成人看護学⑥内分泌・代謝 医学書院

■参考書

科目名	疾病・治療論各論Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	牧野 莊平, 根本 俊和, 他	単位数	1
対象学年	1年	授業方法	(講義)・(演習)・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

専門科目を学習するに当たり、そのベースとなる各種疾患・検査・診断・治療について学習し、看護の根拠となる知識を習得することを目標とする

■授業の概要

循環器系・呼吸器系・血液・造血器系の疾患の症状・検査・診断方法・主な治療について学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス、循環器系疾患の理解と治療1 心筋梗塞、狭心症	
第2回	循環器系疾患の理解と治療2 高血圧、心不全、先天性心疾患	
第3回	循環器系疾患の理解と治療3 心筋疾患、心臓弁膜症	
第4回	循環器系疾患の理解と治療4 大動脈瘤他、心臓の検査	
第5回	循環器系疾患の理解と治療5 主な治療（ペースメーカー、手術療法など）	
第6回	呼吸器系疾患の理解と治療1 肺がんの理解と内科的療法	
第7回	呼吸器系疾患の理解と治療2 肺がんの理解と外科的療法	
第8回	呼吸器系疾患の理解と治療3 肺炎、気管支炎	
第9回	呼吸器系疾患の理解と治療4 気管支喘息、結核	
第10回	呼吸器系疾患の理解と治療5 主な治療	
第11回	血液・造血器系疾患の理解と治療1 血液疾患の特徴と症状	
第12回	血液・造血器系疾患の理解と治療2 白血病	
第13回	血液・造血器系疾患の理解と治療3 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫	
第14回	血液・造血器系疾患の理解と治療4 DIC、紫斑病、再生不良性貧血など	
第15回	血液・造血器系疾患の理解と治療5 輸血療法他主な治療 まとめ	

■履修上の注意

1) 人体構造機能学について十分復習し授業に臨むこと。

■評価方法

出席状況、小テスト、筆記試験の結果を総合的に判断し評価する。

■教科書

系統看護学講座 成人看護学②呼吸器、成人看護学③循環器、成人看護学④血液・造血器 医学書院

■参考書

科目名	微生物学			担当教員 (単位認定者)	高木 勝広	単位数	1
対象学年	1(後期)	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択		必修

■授業の到達目標・期待される学習効果

病原微生物の基礎的な性質、感染と発症機構、化学療法、感染予防対策等について、医療従事者として必要な知識を身につける。特に看護師による院内感染の予防対策は重要である。院内感染予防の観点から合理的な対応と適切な対策を行えるよう、その基盤となる知識を習得する。

■授業の概要

生体内では物質代謝、自己保持の免疫反応や遺伝子の働き等が整然と進んでいる。ここでは人体内における物質代謝、エネルギー代謝などのメカニズムについて物質的側面と機能的側面から理解を深め、主要な代謝経路を理解する。さらに代謝調節と代謝異常について講述し、人体に関する知識を深める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	微生物と微生物学	教科書 第1章 4-12
第2回	細菌学総論① 細菌の形態と特徴	教科書 第2章 14-27
第3回	細菌学総論② 細菌の増殖、遺伝、分類、常在細菌叢	教科書 第2章 28-40
第4回	ウイルス学総論① 形態と構造、分類	教科書 第5章 60-64
第5回	ウイルス学総論② 培養と増殖、遺伝	教科書 第1章 64-70
第6回	真菌学総論 形態と特徴、増殖、分類	教科書 第3章 42-52
第7回	原虫学総論 形態と特徴、増殖、分類 滅菌と消毒	教科書 第4章 54-58 教科書 第9章 138-149
第8回	感染症と発病 感染の機構、感染の成立から発症・治癒	教科書 第6章 74-96
第9回	細菌学各論① グラム陽性球菌からグラム陽性無芽胞桿菌	教科書 第13章 202-208、235-242
第10回	細菌学各論② グラム陰性菌	教科書 第13章 208-235
第11回	細菌学各論③ 抗酸菌、放線菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア	教科書 第13章 242-274
第12回	ウイルス学各論① DNAウイルス	教科書 第16章 296-305
第13回	ウイルス学各論② RNAウイルス	教科書 第16章 305-336
第14回	その他の感染(真菌、原虫)	教科書 第14章 276-284 教科書 第15章 286-294
第15回	講義全体のまとめ	

■履修上の注意

講義計画に該当する内容をテキストから探し、事前に読んでおいてください。また誠意ある態度での受講を求めます。

■評価方法

小テスト(20%)、学期末定期試験(80%)等で評価します。

■教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進④ ISBN 978-4-260-00673-6

■参考書

シンプル微生物学 東匡伸、小熊恵二、南江堂 ISBN978-4-524-23978-8

科目名	生化学			担当教員 (単位認定者)	高木 勝広	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

生体構成分子を化学的に理解するとともに、生体の持つ代謝機能と代謝異常(疾患)について理解する。

■授業の概要

生体内では物質代謝、自己保持の免疫反応や遺伝子の働き等が整然と進んでいる。ここでは人体内における物質代謝、エネルギー代謝などのメカニズムについて物質的側面と機能的側面から理解を深め、主要な代謝経路を理解する。さらに代謝調節と代謝異常について講述し、人体に関する知識を深める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	生化学を学ぶための基礎知識 (化学の基礎知識・細胞の構造と機能)	教科書 第1章 4-19
第2回	生体を構成する物質① 糖質	教科書 第2章 22-36
第3回	生体を構成する物質② 脂質	教科書 第3章 38-52
第4回	生体を構成する物質③ タンパク質	教科書 第4章 54-66
第5回	酵素	教科書 第10章 136-153
第6回	酵素と補酵素② ビタミンと補酵素	教科書 第11章 156-171
第7回	糖質代謝① 糖質代謝総論、解糖	教科書 第9章 128-134 教科書 第12章 172-178
第8回	糖質代謝② クエン酸回路と電子伝達系	教科書 第12章 179-186
第9回	糖質代謝③ 糖新生、ペントースリン酸回路、グリコーゲンの代謝他	教科書 第12章 186-196
第10回	脂質代謝① リポタンパク質、脂肪酸の合成と分解	教科書 第13章 198-209
第11回	脂質代謝② コレステロールの生合成と利用 ホルモンによる糖質・脂質代謝の調節	教科書 第13章 209-216
第12回	タンパク質代謝① タンパク質の分解、アミノ酸代謝	教科書 第14章 218-227
第13回	タンパク質代謝② 尿素サイクル、非必須アミノ酸の合成	教科書 第14章 227-236
第14回	核酸代謝	教科書 第15章 242-250
第15回	代謝異常と疾患	教科書 第17章 260-270

■履修上の注意

各物質代謝の生理学的役割、調節のメカニズム等を複合的に理解し、自身の言葉で人に説明できるようになることを意識して学業に取り組んでください。講義計画に該当する内容をテキストから探し、事前に読んでおいてください。また誠意ある態度での受講を求めます。

■評価方法

小テスト(20%)、学期末定期試験(80%)等で評価します。

■教科書

系統看護講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能[2] ISBN978-4-260-00672-9

■参考書

シンプル生化学[改訂第5版] 南江堂 生化学ガイドブック 南江堂

科目名	栄養学			担当教員 (単位認定者)	木村 順子	単位数	1
対象学年	1(後期)	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

栄養学の基本的な知識を身につける・そして実践可能な分野は日常生活に生かすことを目標とする。そのためには、正しい理論と実践を学習させるための授業を行う。

■授業の概要

栄養学は生涯を通じて健康を保持・増進し、健康的なライフスタイルを送れるよう、食の科学を追求し、それを実践するための学問である。栄養学概論、栄養学各論、病院食、疾患別食事療法の実際を本演習では、以下のスケジュールに沿って進めていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス・人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき	
第2回	栄養状態の評価・判定、エネルギー代謝	
第3回	栄養素の消化吸収、栄養素の体内代謝	
第4回	栄養ケア・マネジメント、ライフステージと栄養	
第5回	臨床栄養(A.病院食、B.疾患別食事療法の実際①)	
第6回	臨床栄養(B.疾患別食事療法の実際②、③)	
第7回	臨床栄養(B.疾患別食事療法の実際③～⑧)	
第8回	臨床栄養(B.疾患別食事療法の実際⑨～⑪、栄養補給法)、健康づくりと食品・食事・食生活、日本人の食事摂取基準	

■履修上の注意

- ・他の教科との関連を理解する。
- ・教科書は、授業内容に合わせ、あらかじめ読んでおき、理解を深めておく。

■評価方法

出席状況と定期試験及び課題提出をもとに総合評価する。

■教科書

著者代表 中村丁次 系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院 (税込1,995円)

■参考書

著者代表 中村丁次 系統栄養学講座別巻 栄養食事療法 医学書院 (税込1,890円)

科目名	病理学			担当教員 (単位認定者)	前島 俊孝	単位数	1
対象学年	1(後期)	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

将来、医療スタッフとして必要となる病理学関連の医学用語を理解し、それを正しく説明できる。
基本的な疾患の病態について説明することができる。

■授業の概要

病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学ぶ。覚えることは必要であるが、考えることをより重視した講義を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	病理学のオリエンテーション	
第2回	解剖学と病理学	
第3回	病因	
第4回	進行性病変と退行性病変	
第5回	代謝異常	
第6回	先天異常	
第7回	循環障害	
第8回	炎症	
第9回	免疫異常・アレルギー	
第10回	感染症	
第11回	腫瘍 (1)	
第12回	腫瘍 (2)	
第13回	生体反応	
第14回	糖尿病	
第15回	まとめ	

■履修上の注意

病理学の内容は、医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解がないといろいろな分野の医学書を読むことも不可能である。
自発的に勉強し考える習慣をつけて欲しい。

■評価方法

筆記試験(論述・客観)、レポート

■教科書

新クイックマスター 病理学 (堤 寛 監修、医学芸術社)

■参考書

解剖学の教科書(病理学の講義でも使用する)

科目名	臨床薬理・薬物論		担当教員 (単位認定者)	新井 篤	単位数	1
対象学年	1(後期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

Ptが受けている薬物療法が、安全に行えるよう臨床と関連づけながら使われている薬の作用や副作用などを正しく理解する。各種薬物の薬理作用と効果的適用。

■授業の概要

薬理作用の基礎として、薬の作用原理・吸収・代謝・排泄などの機序を学ぶ。その後、病態生理をおさえた上で臨床薬を中心にその薬理作用・治療法や使用上の注意点を学び臨床で活用できる知識を身に付けることを目的とする。ステロイド 化学療法、中枢・末梢神経系薬物、オータコイド、心臓血管系・呼吸器・消化器・生殖器系薬物、物質代謝薬物、生物学的製剤、検査・診断薬等について。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	今後の授業内容についてオリエンテーションを行う。および生理学復習。	生理学全般予習復習
第2回	薬理学 総論 薬理作用の基礎。薬の作用原理・受容体・吸収分布・代謝・排泄・相互作用・薬物中毒・副作用などを理解する。	教科書予習復習
第3回	薬理学 各論 末梢神経系と末梢神経作用薬 について を学ぶ。	教科書予習復習
第4回	自律神経系薬物について を学ぶ。	教科書予習復習
第5回	中枢神経系作用薬について を学ぶ。	教科書予習復習
第6回	心血管系作用薬について を学ぶ。	教科書予習復習
第7回	呼吸器・消化器・生殖器系作用薬について を学ぶ。	教科書予習復習
第8回	抗感染症薬について を学ぶ。	教科書予習復習
第9回	抗癌剤について を学ぶ。	教科書予習復習
第10回	免疫治療薬について を学ぶ。	教科書予習復習
第11回	抗アレルギー薬について を学ぶ。	教科書予習復習
第12回	抗炎症薬について を学ぶ。	教科書予習復習
第13回	物質代謝作用薬について(糖尿病・甲状腺・骨粗鬆症)について を学ぶ。	教科書予習復習
第14回	皮膚科・眼科用薬について を学ぶ。	教科書予習復習
第15回	救急時用いられる薬物・消毒薬について を学ぶ。	教科書予習復習

■履修上の注意

予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

医学書院 系統看護学講座 専門基礎5 疾病のなりたちと回復の促進2 薬理学
医学書院 治療薬マニュアル

■参考書

学研 薬のはたらきを知る やさしい薬理のメカニズム 中原保裕 著 授業内で適宜紹介する。

科目名	看護学概論Ⅰ		担当教員 (単位認定者)	佐藤 正美 中溝 道子 他	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

看護とは何かを探究すると共に、看護の独自性・専門性を理解する。併せて、看護学の主要概念である人間、環境、健康、生活について、自分の体験と理論との繋がりを理解し看護学を学ぶ基礎を身につける

■授業の概要

1. 学生自身の病気体験や看病体験を通して「看護とは何か」「健康とは何か」「病気とは何か」を考え、理論と結び付けて教授する。
2. 全ての人間は共通性と個性を持った唯一無二のかけがえのない存在であること、人間の可能性について教授する。
3. 学生自身の生活を通し、生活とは、環境について教授する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーションー看護学概論Ⅰで何を学ぶかー 看護の対象である人間はどういう存在か〔1〕一人間とは何かー	看病を受けた身近な体験を通して、看護とは何かを考える
第2回	看護の対象である人間はどういう存在か〔2〕 ー統合体としての人間・人間の共通性と相違性ー	「人間とは、どういう存在か」について考える
第3回	看護の対象である人間はどういう存在か〔3〕 ー人間のライフサイクルと発達過程ー	「人間の一生」について予習
第4回	人間の生活と環境〔1〕 ー生活とは・人間の生活の共通性と相違性ー	自分の24時間の生活を具体的にまとめる
第5回	人間の生活と環境〔2〕 ー人間にとって環境とはー	「環境とは」について予習
第6回	健康とは何か〔1〕 ー健康の法則・健康の定義・健康に影響する要因ー	健康の定義について予習
第7回	健康とは何か〔2〕 ー健康に生きるとはー	「健康とは何か」「健康を維持するには」について考える
第8回	病気とは何か。ー病気について看護的な考え方ー	「病気とは何か」について考える
第9回	看護とは何か〔1〕 ーナースが考える看護とは What it is and it is notー	「看護覚え書」序章 予習
第10回	看護とは何か〔2〕 ー看護の概念及び定義に関する諸説・社会の変化と看護概念の拡大ー	看護の概念について 予習
第11回	看護とは何か〔3〕 ー看護の歴史の変遷とこれから求められる看護の役割ー	看護の歴史の変遷について予習
第12回	看護とは何か〔4〕 看護を实践する場を通して「看護」について考える。	「看護とは」「人間とは」「健康とは」「生活とは」「環境とは」について、関連を復習
第13回	看護とは何か〔5〕 ー看護者に求められる能力とは・看護に含まれる構造ー	「看護覚え書」補章 予習
第14回	健康を害した人の理解〔1〕 ー事例を通して患者の心理・家族の支えについて考えるー	「看護とは」「人間とは」「健康とは」「生活とは」「環境とは」について、関連を復習
第15回	健康を害した人の理解〔2〕 ー身体と心と生活背景を統合した理解ー	「看護とは」「人間とは」「健康とは」「生活とは」「環境とは」について、関連を復習

■履修上の注意

1. 事前に提示された教本をしっかりと読んで、学生自身が理解したことを整理して授業に臨むこと。
2. 授業中の疑問を大切に、学生同士で討議する姿勢を持ち、感性や思考力を高める努力をすること。
3. 学生同士の討議を通して、授業における学生自身の積極的な参加姿勢を望む。

■評価方法

筆記試験70%と課題レポート30%を総合的に評価する。

■教科書

1. 藤崎 郁他：看護学概論基礎看護学【1】、医学書院。
2. F. ナイチンゲール（湯楨ます・薄井 坦子他訳）：看護覚え書き、現代社。
3. 時実利彦：人間であること、岩波新書、2010。

■参考書

授業中に適宜紹介

科目名	看護学概論Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	佐藤 正美 中溝 道子 他	単位数	1
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 看護をめぐる諸制度及び保健医療福祉システムにおける看護職の果たす役割について理解する。
2. 看護倫理をめぐる社会的背景を理解し、看護職者としての内的規範を身につける。

■授業の概要

1. 看護の機能する場・就業状況・看護管理システムについて教授する。
2. 保健・医療・福祉が地域で生活している人々にどの様に関わっているかを身近なものとなつて具体的に教授し、看護職の果たす役割について考える機会とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーションー看護学概論Ⅱで何を学ぶのかー看護職の養成制度とキャリア開発	看護職者の教育制度について調べる。
第2回	看護の機能する場と役割及び看護職の就業状況 チーム医療ー他職種との連携	看護者が働いている場はどの様などことがあるか調べる。
第3回	保健医療福祉システムと看護の位置付け	保健・医療・福祉システムについて予習。
第4回	看護管理ー看護管理システム・組織・リーダーシップとフォロワーシップ〔1〕	管理とは何をすることなのかを予習
第5回	看護管理ー看護管理システム・組織・リーダーシップとフォロワーシップ〔2〕	看護管理について復習
第6回	看護をめぐる制度・政策	看護職者に関わる法制度について予習。
第7回	看護における倫理〔1〕 倫理的原則・職業倫理・看護倫理の社会的重要性・ 看護倫理をめぐる社会的背景	看護倫理の重要性について予習
第8回	看護における倫理〔2〕 一事例を通して考える	今までの学習を復習

■履修上の注意

予習・復習をして、積極的に授業に臨むこと。

■評価方法

筆記試験

■教科書

藤崎 郁他：看護学概論基礎看護学【1】，医学書院。

■参考書

授業中に適宜紹介

科目名	看護方法論Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	溝口 孝美 中溝 道子	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修		

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 看護過程の構造を理解し、看護の目的に照らし人間を統合的に把握し対象に必要な看護を導き出し計画的に実施・評価する思考の道筋を理解する。
2. 看護過程と看護診断の関係及び看護診断の概要・意義を理解する。

■授業の概要

1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、看護過程を用いることの意義について事例を基に教授する。
2. NANDA — 1看護診断を中心に教授し、各看護学における看護過程展開の基礎とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション — 看護方法論Ⅰで何を学ぶのか— 看護方法論ⅠとⅡの関係・看護方法論と看護過程	看護過程の基礎知識について予習
第2回	看護過程の構成要素及び各構成要素との関係 看護過程を用いる意義	看護過程の構成要素について予習
第3回	看護過程の基盤となる考え方—問題解決過程・クリティカルシンキング—	クリティカルシンキングについて予習
第4回	情報収集の方法と内容・情報分析 看護理論に基づいたアセスメントの枠組み	情報収集の方法・内容について予習
第5回	看護問題の明確化と看護問題の優先順位—	看護問題に関する基礎知識について学習
第6回	看護問題と看護診断—看護診断とは—	看護過程における看護診断の位置付けについて予習
第7回	看護診断の構成要素・定義	看護診断構成要素について予習
第8回	診断概念の背景にある中範囲理論〔1〕 中範囲理論とは・保健行動的中範囲理論・認知的中範囲理論	中範囲理論について予習
第9回	診断概念の背景にある中範囲理論〔2〕 情動的な中範囲理論・社会的な中範囲理論・統合的中範囲理論	中範囲理論について予習
第10回	診断概念—診断指標—関連因子—危険因子との関連〔1〕	診断概念・診断指標・関連因子・危険因子の関連について予習
第11回	診断概念—診断指標—関連因子—危険因子との関連〔2〕	診断概念・診断指標・関連因子・危険因子の関連について予習
第12回	看護計画の立案	看護計画立案に関する基礎知識について予習
第13回	看護実践及び記録	看護記録について予習
第14回	評価の方法	看護評価に関する基礎知識の学習
第15回	看護過程展開の一連の学習の確認	看護過程展開の一連の講義の復習

■履修上の注意

- ・看護方法論Ⅰは、看護方法論Ⅱにおける看護過程展開の演習の基礎となる科目であることから、予習を・復習をしっかり行い授業に臨むこと。
- ・既習の知識を活用するので、今までの学習の復習をしっかりと臨んでほしい。

■評価方法

授業への参加度と課題レポート（40%）・筆記試験（60%）を総合して評価する。

■教科書

1. 茂野 香おる他：専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，医学書院。
2. 1. NADainternational：NANDA — 1看護診断 定義と分類2012 — 2013，医学書院，2011。
3. 黒田裕子：よくわかる中範囲理論，学研，2009。

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	基礎看護援助技術I		担当教員 (単位認定者)	中溝 道子・溝口 孝美 石川文江	単位数	1 (15コマ・30時間)
対象学年	1(前期)	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 看護援助技術の学習にあたっての心構えが理解できる。
2. 医療を安全に提供するために必要な知識を理解し、滅菌・消毒物の取り扱いや洗浄等に関する技術を習得する。
3. 医療現場で用いられている衛生学的手洗いができる。
4. 対人関係を円滑にし、信頼関係を樹立するコミュニケーションの意義を理解し、その技術を習得する。
5. 身体の機能的・効率的な活用の仕方となるボディメカニクスを理解し、それを活用したベッドメイキングができる。
6. 看護技術の基本原則である安全について理解し、安心できる移動や移乗、移送の援助技術を習得する。
7. 休息と睡眠の意義を理解し、その援助技術を習得する。
8. 患者の苦痛の緩和と安楽確保が生理的・精神的に与える影響と効果を理解し、その援助技術を習得する。

■授業の概要

基本的看護技術である日常生活の援助技術を身体の機能的・効率的な活用の基盤となる人間工学的な面から学習し、看護ケアの中で活用できるように教授する。また、対象の安全や安楽に配慮しつつ科学的根拠に基づく看護技術を講義、演習を通して教授する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目に対するオリエンテーション 看護技術の考え方	
第2回	感染防止の技術 [1] ・感染防止の基礎知識、感染経路別予防策	・感染予防の必要性
第3回	感染防止の技術 [2] ・洗浄、消毒、滅菌	・滅菌とは、消毒とは ・無菌操作とは
第4回	感染防止の技術 [3] ・衛生学的手洗い (演習－衛生学的手洗い)	・衛生学的手洗いの必要性
第5回	人間関係を発展させる技術 ・患者や家族とのコミュニケーションに必要な基礎知識	・患者や家族と信頼関係を築くための コミュニケーションとは
第6回	環境調整の技術 [1] ・ボディメカニクス ・病床環境の整備	・ボディメカニクスについて
第7回	環境調整の技術 [2] ・病床環境の整備 (演習－ベッドメイキング)	・病床環境とは ・ベットメイキング
第8回	環境調整の技術 [3] ・病床環境の整備 (演習－ベッドメイキング)	・病床環境とは ・ベットメイキング
第9回	活動と休息の援助技術 [1] ・基本的活動の援助	・活動と休息の意義 ・サーカディアンリズムとは
第10回	活動と休息の援助技術 [2] ・睡眠・覚醒の援助	・良眠への援助
第11回	苦痛の緩和・安楽の確保の技術 [1] ・体位変換 ・安楽な体位	・患者にとっての苦痛・安楽とは
第12回	苦痛の緩和・安楽の確保の技術 [2] ・移乗、移送(車椅子、ストレッチャー) ・氷嚢、氷枕の与え方	・ホリスティック看護とは
第13回	苦痛の緩和・安楽の確保の技術 [3] (演習－体位変換・安楽な体位)	・体位変換、安楽な体位の方法
第14回	苦痛の緩和・安楽の確保の技術 [4] (演習－車椅子・ストレッチャー)	・車椅子の各部の名称 ・移送時の注意事項
第15回	苦痛の緩和・安楽の確保の技術 [5] (演習－氷嚢・氷枕の与え方)	・氷嚢、氷枕の与える時の留意事項

■履修上の注意

1. 卒業時まで最低限習得の必要な基礎看護技術の中でも、特に基礎となる内容を学習するので、授業の理解に必要な人体構造機能学の知識については、自分で学習を進めること
2. 学内演習では、看護師としての姿勢が反映することから、頭髪を整え白衣・シューズを着用し、身だしなみを整えてから入室のこと(実習室使用手引参照)
3. 学内演習は、看護師役と患者役、観察役または評価者役を交替して行なうので、お互いに看護技術を評価し合い、意見交換を行ない看護技術の習得に役立てること
4. 看護技術の習得は1回の演習ではできないので、繰り返し演習を行ない身に付けること

■評価方法

筆記試験(80%)、提出物(20%)に出席状況、学習態度、演習の参加態度などを総合して評価する。

1. 提出物は、提出状況、内容の目標到達状況により評価する

■教科書

1. 有田清子他；基礎看護技術I，医学書院、2011。
2. 藤崎 郁・任 和子編集；基礎看護技術II，医学書院、2011。
3. 氏家幸子他；基礎看護技術 第7版，医学書院、2011。

■参考書

1. 三上りつ・小松万喜子編集；演習・実習に役立つ基礎看護技術，NOUVELLE HIROKAWA、2011。
2. 坪井佳子・松田たみ子編集；考える基礎看護技術I・II，NOUVELLE HIROKAWA、2011。

科目名	基礎看護援助技術Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	中溝 道子・溝口 孝美 石川 文江	単位数	1 (15コマ・30時間)
対象学年	1(前期)	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 健康および生命維持に欠かせない栄養・食事および排泄の意義を理解し、その援助技術を習得する。
2. 身体各部の構造・機能に基づいた清潔ケアの方法と衣服を用いることの意義を学び、その援助技術を習得する。
3. 患者の苦痛の緩和と 安楽確保が生理的・精神的に与える影響と効果を理解し、その援助技術を習得する。

■授業の概要

基礎看護援助技術Ⅰで学習した内容に引き続き、基本的看護技術である日常生活の援助技術と診療に伴う技術を対象の安全や安楽に配慮しつつ科学的根拠に基づく看護技術を講義、演習を通して教授する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目に対するオリエンテーション 栄養と食事援助技術〔1〕・栄養と食事の意義・摂食・嚥下訓練など	・人間にとって食べることの意義 ・自分の1週間の食生活を記録し、カロリーや栄養面から分析
第2回	栄養と食事援助技術〔2〕 食事介助・口腔ケア (演習一食事介助、口腔ケア)	・口腔ケアの必要性
第3回	排泄の援助技術〔1〕 ・自然排尿および自然排便の援助・排便を促す援助など・導尿	・便尿器の種類と特徴
第4回	排泄の援助技術〔2〕 (演習一便器・尿器の与え方)	・排泄のケアを受けなければならない患者の心理
第5回	排泄の援助技術〔3〕 (演習一導尿)	・技術確認試験に備えて自己学習
第6回	排泄の援助技術〔4〕	*導尿技術確認試験 ・技術確認試験に備えて自己学習
第7回	排泄の援助技術〔5〕	*導尿技術確認試験 ・技術確認試験に備えて自己学習
第8回	清潔・衣生活への援助技術〔1〕 ・全身の清潔・身体部分の清潔	・皮膚の構造・機能について
第9回	清潔・衣生活への援助技術〔2〕 ・衣生活の援助など	・衣生活に対する自分の考えをまとめる
第10回	清潔・衣生活への援助技術〔3〕 (演習一全身清拭・寝衣の交換)	・身体の清潔を保つ意義
第11回	清潔・衣生活への援助技術〔4〕 (演習一足浴・洗髪)	・身体の清潔を保つ意義
第12回	呼吸・循環を整える技術〔1〕 ・酸素吸入療法・吸引・吸入・排たんケア	・呼吸とは
第13回	呼吸・循環を整える技術〔2〕 (演習一酸素吸入・吸引・吸入)	・酸素吸入療法とは
第14回	呼吸・循環を整える技術〔3〕 (演習一排たん)	・一時的吸引の手順と注意点
第15回	まとめ	

■履修上の注意

1. 卒業時まで最低限習得に必要な基礎看護技術の中でも、特に基礎となる内容を学習するので、授業の理解に必要な人体構造機能学の知識については、自分で学習を進めること
2. 学内演習では、看護師としての姿勢が反映することから、頭髪を整え白衣・シューズを着用し、身だしなみを整えてから入室のこと(実習室使用手引参照)
3. 学内演習は、看護師役と患者役、観察役または評価者役を交替して行なうので、お互いに看護技術を評価し合い、意見交換を行ない看護技術の習得に役立てること
4. 看護技術の習得は1回の演習ではできないので、繰り返し演習を行ない身に付けること

■評価方法

筆記試験(60%)、技術確認試験(30%)、提出物(10%)に出席状況、学習態度、演習の参加態度等総合して評価する。

1. 実技試験はチェックリストに基づき目標到達状況により評価する
2. 提出物は、提出状況、内容の目標到達状況により評価する

■教科書

1. 有田清子他;基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2011.
2. 藤崎 郁・任 和子編集;基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2011.
3. 氏家幸子他;基礎看護技術 第7版, 医学書院, 2011.

■参考書

1. 三上りつ・小松万喜子編集;演習・実習に役立つ基礎看護技術, NOUVELLE HIROKAWA、2011.
2. 坪井佳子・松田たみ子編集;考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ, NOUVELLE HIROKAWA、2011.

科目名	基礎看護援助技術Ⅲ			担当教員 (単位認定者)	中溝 道子・溝口 孝美 石川 文江	単位数	1 (15コマ・30時間)
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	必修		

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. ヘルスアセスメント及びフィジカルアセスメントの意義を理解する。
2. 看護専門職者に必要なフィジカルアセスメントの基礎的知識、技術を理解する。
3. 看護の観察に必要とされるバイタルサイン測定方法を習得する

■授業の概要

人体構造機能学での学びをもとに、看護専門職者に必要とされるフィジカルアセスメント能力を高めるために、フィジカルイグザミネーションの技術を通してヘルスアセスメント及びフィジカルアセスメントに必要な基礎的知識、技術を教授する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目に対するオリエンテーション ヘルスアセスメントとは	ヘルスアセスメントの予習 フィジカルアセスメントの予習
第2回	看護におけるフィジカルアセスメント 観察・報告・記録	観察・記録・報告の予習
第3回	フィジカルイグザミネーションの基本技術 ・問診、視診、聴診、打診、触診	フィジカルイグザミネーションの予習
第4回	フィジカルアセスメントの実際（器官系別、系統的） ・頭頸部、胸部	人体構造機能学の頭部、胸部を予習・復習
第5回	フィジカルアセスメントの実際（器官系別、系統的） ・呼吸器系、循環器系	人体構造機能学の呼吸器系、循環器系を予習・復習
第6回		
第7回	フィジカルアセスメントの実際（器官系別、系統的） ・消化器系他	人体構造機能学の消化器系を予習・復習
第8回		
第9回	フィジカルアセスメントの実際（器官系別、系統的） ・神経系	人体構造機能学の神経系を予習・復習
第10回	フィジカルアセスメントの実際（器官系別、系統的） ・事例展開	人体構造機能学の器官別、系統別全てを予習・復習
第11回		
第12回		
第13回	バイタルサインとは バイタルサイン測定とは	人体構造機能学の予習・復習、観察復習、バイタルサイン予習
第14回	バイタルサイン測定の方法 バイタルサイン技術確認試験	
第15回	まとめ	

■履修上の注意

1. 卒業時までには最低限習得の必要な基礎看護技術の中でも、特に基礎となる内容を学習するので、授業の理解に必要な人体構造機能学の知識については自分で学習を進めること。
2. 学内演習は、看護師役と患者役、観察役または評価者役を交替して行うので、お互いに看護技術を評価し合い、意見交換を行い看護技術の習得に役立てること。
3. 看護技術の習得は1回の演習ではできないので繰り返し演習を行い身につけること。
4. 実習室を使用する時は、実習室使用ガイドにより使用すること。

■評価方法

定期試験（60%）、技術確認試験（30%）、出席状況、学習態度、演習の参加態度、（10%）などを総合して評価する。

■教科書

1. 有田清子他；基礎看護技術Ⅰ，医学書院、2011.
2. 藤崎 郁・任 和子編集；基礎看護技術Ⅱ，医学書院、2011.
3. 坪井佳子・松田たみ子編集；考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，NOUVELLE HIROKAWA、2011.
3. 日野原 重明他；. フィジカルアセスメントーナーズに必要な診断の知識と技術ー医学書院、2009

■参考書

授業の中に提示

科目名	基礎看護援助技術Ⅳ			担当教員 (単位認定者)	中溝 道子・溝口 孝美 石川 文江	単位数	1 (15コマ・30時間)
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	必修		

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 診療と看護の意義を理解する
2. 生体検査、検体検査、ME機器の看護について理解する
3. 血液検査における看護技術を習得する
4. 与薬に対する看護技術を習得する
5. 救命救急の基礎知識をもとに急変時の基礎的技術を理解する
6. 侵襲的処置の介助技術を理解する
7. 死の看取りの基礎的看護について理解する

■授業の概要

医学的な問題を抱える対象実施される診療・検査・治療における看護の役割と、診療に伴う看護に必要な知識、技術を教授する

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	診療と看護科目に対するオリエンテーション	診療について予習
第2回	生体検査とは ・生体検査の方法と看護の役割	生体検査について予習
第3回	・検体検(尿、便、喀痰その他) ・血液検査、採血方法	尿、便、喀痰、血液、に 静脈について予習・復習
第4回		
第5回	ME機器について ・ME機器の取り扱いと看護	ME機器について 予習・復習
第6回	与薬と看護 ・与薬における看護の役割 ・与薬の種類と方法 ・経口与薬、口腔内与薬、直腸内与薬	・消化器系の解剖生理について復習 ・経口、口腔内、直腸内与薬について 予習
第7回		
第8回	注射の方法(1) ・皮下注射法、皮内注射法静脈注射、点滴注射、輸血	注射方法、無菌操作に ついて予習・復習
第9回	注射の方法(2) ・筋肉内注射の方法(中殿筋、三角筋)	中殿筋、三角筋の解剖に ついて予習・復習
第10回		
第11回	救命・救急処置 ・救命・救急とは ・心肺蘇生法	循環器系、呼吸器系生理について予習・ 復習
第12回		
第13回	侵襲的な処置 ・洗浄方法、穿刺方法	洗浄、穿刺について予習・復習
第14回	死の看取りの技術 ・安らかな死への援助	死の兆候について 予習・復習
第15回		

■履修上の注意

1. 卒業時までには最低限習得の必要な基礎看護技術の中でも、特に基礎となる内容を学習するので、授業の理解に必要な人体構造機能学の知識については自分で学習を進めること。
2. 学内演習は、看護師役と患者役、観察役または評価者役を交替して行うので、お互いに看護技術を評価し合い、意見交換を行い看護技術の習得に役立てること。
3. 看護技術の習得は1回の演習ではできないので繰り返し演習を行い身につけること。
4. 実習室を使用する時は、実習室使用ガイドにより使用すること。

■評価方法

筆記試験と授業及び演習の参加度を総合して評価

■教科書

1. 有田清子他；基礎看護技術Ⅰ，医学書院、2011.
2. 藤崎 郁・任 和子編集；基礎看護技術Ⅱ，医学書院、2011.
2. 坪井佳子・松田たみ子編集；考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，NOUVELLE HIROKAWA、2011.

■参考書

1. 三上りつ・小松万喜子編集；演習・実習に役立つ基礎看護技術，NOVELLE HIROKAWA，2011
2. 氏家幸子他；基礎看護技術 第7版，医学書院、2011
3. 日本看護協会教育委員会編；安全で確かな与薬①～②，インターメディカ，2010
4. 小野哲草他；ナースのためのME機器マニュアル，医学書院，2011

科目名	看護論			担当教員 (単位認定者)	佐藤 正美 中溝 道子 他	単位数	1
対象学年	1(前期)	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択		必修

■授業の到達目標・期待される学習効果

ナイチンゲール・ヘンダーソン看護論における看護目的論・看護対象論・看護方法論 について具体的内容を理解し、理論を使って看護を展開していく力をつける。

■授業の概要

1. 看護論とはどういうものか、また代表的な看護理論について概説する。
2. ナイチンゲール・ヘンダーソン看護論の理解枠組みおよび知識体系に関して教授する。また、具体的事例を使って看護論と看護過程の関連を教授する。併せて、代表的な看護理論について概説する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーションー看護論とはー	「看護論とは何か」について予習
第2回	ナイチンゲール看護論：「看護目的論」「看護対象論」〔1〕	「看護覚え書」序章 予習
第3回	ナイチンゲール看護論：「看護の構成要素」〔2〕	「看護の構成要素」について予習
第4回	ナイチンゲール看護論：「看護の構成要素」「看護師の能力」〔3〕	「食事」「陽光」「清潔」「病人の観察」補章予習
第5回	ナイチンゲール看護論を継承発展させた「科学的看護論」を使っての看護過程展開	配布資料の予習
第6回	ヘンダーソン看護論：「看護目的論」〔1〕	ヘンダーソン看護論について予習
第7回	ヘンダーソン看護論：「看護対象論」〔2〕	第1章看護師の独自の機能～基本的看護ケアを予習
第8回	ヘンダーソン看護論：「14の基本的欲求」〔3〕	人間の基本的欲求の構成要素について予習
第9回	ヘンダーソン看護論：「14の基本的欲求」〔4〕	人間の基本的欲求の構成要素について予習
第10回	ヘンダーソン看護論：人間の基本的欲求と基本的看護との関係〔5〕	基本的欲求と基本的看護との関係について予習
第11回	ヘンダーソン看護論：基本的欲求に影響を及ぼす常時存在する条件〔6〕	常時存在する条件について予習
第12回	ヘンダーソン看護論：基本的欲求を変容させる病理的状態〔7〕	病理的状態について予習
第13回	主要な看護理論家の看護概念〔1〕	主要な看護理論家について予習
第14回	主要な看護理論家の看護概念〔2〕	主要な看護理論家について予習
第15回	まとめ	1～14回の授業復習

■履修上の注意

1. 事前に提示された教本をしっかりと読んで、学生自身が理解したことを整理して授業に臨むこと。
2. 看護論の目次の構成（読み方、並べ方）を考えて読むこと。

■評価方法

筆記試験（70%）と課題レポート（30%）を総合的に評価する。

■教科書

1. 藤崎 郁他：看護学概論基礎看護学【1】，医学書院。
2. F. ナイチンゲール（湯楨ます・薄井坦子他訳）：看護覚え書き，現代社，2007。
3. V. ヘンダーソン（湯楨ます・小玉香津子訳）：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2009。

■参考書

授業中に適宜紹介

科目名	看護基礎実習Ⅰ		担当教員 (単位認定者)	中溝 道子・溝口 孝美 石川 文江	単位数	1
対象学年	1(後期)	授業方法	講義・演習・ 実習	必修・選択	必修	

■実習の目的または到達目標

1. 実習目的

医療・看護の行なわれている場において、患者および患者をとりまく環境の理解を深め、看護の実践がわかる。

2. 実習目標

- 1) 病院機能の概略および病院における医療チームとその役割を理解する。
 - (1) 病院の施設・設備の概略がわかる。
 - (2) 病院の組織機構と機能の概略がわかる。
 - (3) 看護と他の医療チームとの連携について理解する。
- 2) 入院患者の療養生活の場がわかる。
 - (1) 病棟・病室の構造がわかる。
 - (2) 患者をとりまく環境と日常生活が把握できる。
- 3) 看護の対象者とバイタルサイン測定を通してコミュニケーションをはかり、入院患者のおかれている立場を理解する。
 - (1) 患者に誠意をもち、真摯な態度で向き合うことができる。
 - (2) 患者のバイタルサイン測定を通してコミュニケーションを図ることができる。
 - (3) 患者の気持ちが理解できる。
 - (4) 家族の気持ちを考えることができる。
- 4) 看護師の役割を理解する。
 - (1) 看護師の看護活動から看護の役割を理解する。

■実習履修要件

看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護論および基礎看護援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの単位認定資格要件を満たしていること。

■実習時期及び実習日数・時間

1. 時 期：平成25年3月11日(月)～3月15日(金)
2. 日 数：5日間
3. 時 間：45時間(1単位)

■実習上の注意

1. 具体的内容については、看護学実習の共通要綱及び基礎看護学実習要項に順じ遵守すること。
2. 実習施設の特徴や組織機構や対象の特徴等は予め自己学習をし、把握しておくこと。
3. 実習病院のアクセスについても予め確認しておくこと。
4. 看護師の役割機能については事前学習を自己学習ノートにまとめておくこと。

■評価方法

1. 出欠席と単位については看護学実習要綱共通編を参照すること。
2. 看護基礎実習Ⅰの実習評価表に基づき目標の達成度、実習態度、提出された実習記録等によって評価する。

科目名	精神看護学概論		担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ 仙田 志津代	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	必修

■授業の到達目標・期待される学習効果

精神看護の目的や対象の理解、看護の役割機能ならびに方法について学び、心の健康に必要な看護に活かすことができる。

■授業の概要

精神看護の意義および役割機能を社会的変遷から概観し、こころの発達と社会生活における精神的健康関連因子から対象理解を深め、精神的健康の保持増進から精神活動を障害された対象への援助に必要な理論と方法論を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション ・現代社会とメンタルヘルス ・身近な社会病理現象とその背景（自殺と社会問題）	身近な社会病理現象を1つ取り上げ、その背景について考えたことを記述して持参する。メンタルヘルスの必要性をまとめる。
第2回	精神保健（mental health）の定義 ・世界保健機関（WHO）の健康の定義 ・精神保健の領域・精神看護の役割機能	WHOの健康の定義を調べておく。精神看護を必要とする領域から精神看護の役割機能を考える。
第3回	精神科医療の歴史 ・欧米と日本の比較・法と関連事件・社会的偏見・差別・スティグマ ・精神看護における倫理	精神科医療の歴史の変遷について、欧米・日本との比較、法と関連事件をレポートする。
第4回	ライフサイクルと発達概念 ・各発達における特徴と危機（エリクソン）・精神的健康（マズロー他） ・精神力動的な考え方・不安と防衛機制（フロイト）	青年期にある自己の発達課題とその取組をまとめる。イド・エゴ・スーパーエゴの視点でその関連をレポートする。
第5回	ライフサイクルにおける危機と危機介入 ・生活の場とメンタルヘルス（家庭・学校・職場・偶発的危機状況など） ・看護師のメンタルヘルス（新人看護師のリアリティショック、中間看護師および看護管理者のワーカーホーリック、燃え尽きなど）	それぞれの生活の場におけるメンタルヘルスについてまとめる。将来、新人看護師として予測されるメンタルヘルス上の課題を考える。
第6回	精神看護学領域で用いられる看護理論・看護モデルの概説（1） ・適応看護論（人間と適応）・ロイ	理論的枠組みを用い、考え方を習得する。
第7回	精神看護学領域で用いられる看護理論・看護モデルの概説（2） ・人間関係の看護論（精神力動的看護）ペブロー	理論的枠組みを用い、考え方を習得する。
第8回	精神看護学領域で用いられる看護理論・看護モデルの概説（3） ・セルフケア看護論（精神看護の展開）オレム・アンダーウッド	理論的枠組みを用い、考え方を習得する。
第9回	精神看護におけるコミュニケーションの枠組み ・コミュニケーションの機能と要素 ・コミュニケーションに影響する患者側の因子 ・精神症状をもつ患者とのコミュニケーション	コミュニケーションの基本的な知識を復習して、精神看護におけるコミュニケーションについて考える。
第10回	積極的傾聴とコミュニケーション ・積極的傾聴とは ・看護における積極的傾聴の必要性	看護における聴くことの意味について考える。
第11回	現代社会における人間関係 ・家族・夫婦・親子・職場における人間関係	自分の身近な体験を通して、社会における人間関係について考える。
第12回	対人援助における人間関係 ・前提：相手を知ること、自分を知ること ・原則：人としての尊厳を尊重する 距離をもつ 現実検討 ・方法：そばに居ること ユーモア 話をすること 気持ちに焦点化	実際に体験を通して、自分自身について振り返りながら、援助について考える。
第13回	地域精神保健看護 ・精神障がい者リハビリテーションをささえる看護師の役割 ・地域社会における支え合うつながりの必要性と現状の課題	精神障がい者リハビリテーションをささえる看護ならびに現状の課題を明確にする。
第14回	メンタルヘルスの今後の課題（1） ・VTR「懐かしい未来」ラダックから学ぶ暮らしの変遷にみるメンタルヘルス上の課題	VTRからの学びを通して現代社会におけるメンタルヘルス上の課題を考える。
第15回	メンタルヘルスの今後の課題（2） ・発表を聴きながら今後のメンタルヘルスのありかたを深める	発表および個人レポートをまとめ、提出する。

■履修上の注意

- ・メンタルヘルスにおける社会問題に着目し、さまざまな状況下にある人の「生きる力」を支えるとともに、自分らしい人生を歩むことができるための「考える力」を身につけることを意識した学びを心がける。
- ・予習・復習により、学習の整理、新たな課題を見出し、自分の考えを述べ、思考を発展させることを望みたい。
- ・毎回の授業終了時には、本時の学んだこととその内容に関連した国家試験問題を小テストとして実施し、知識確認を行う。

■評価方法

出席状況（10%）、授業参加態度（10%）、レポート、試験（80%）等の総合評価で行う。

■教科書

吉松和哉編集：精神看護学I「精神保健看護学」第5版、nouvelle Hirokawa, 2010, 川野雅資編集：「エビデンスに基づく精神看護のケア関連図」中央法規、2008

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	精神看護学援助論I			担当教員 (単位認定者)	福山 なおみ 仙田 志津代	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	必修		

■授業の到達目標・期待される学習効果

精神看護における看護援助の基本と、活用する技法について学び、心の健康を保持するための看護実践に活かすことができる。

■授業の概要

心の健康の保持増進及び精神に障害をもち危機的状況に陥った対象の援助に必要な理論と方法を学ぶ。また、他者とのかかわりの中で自己理解を深める学習を通して、患者と看護師関係における自己活用の能力を高め、精神保健医療システムにおける看護師の役割を理解し、人間の自立（自律）を育む支援について学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 精神を病む人の理解（急性期から回復期、慢性期の看護、行動制限と看護）	精神看護学概論の復習 発病から回復、慢性期の看護
第2回	精神を病む人への看護援助の基本 ・日常生活援助	看護援助の基本を日常生活を通して考える
第3回	看護過程の展開（1） ・オレム・アンダーウッド「セルフケア」	精神看護における日常生活援助をセルフケア理論から考える。
第4回	看護過程の展開（2） ・ペプロウ「看護師-患者関係の対人的プロセス」	対人的プロセスを4つの局面で説明する。
第5回	患者・看護師関係の振り返り（1） ①プロセスレコードと再構成 ペプロウ・オーランド・ウィーデンバック	再構成の意義を理解し、看護師と患者との関係を振り返り、援助の方向性を考える。
第6回	患者・看護師関係の振り返り（2） ②看護場面の再構成	看護師と患者との関係を振り返り、再構成する。
第7回	事例検討（1） ロールプレイング	患者と看護師との関係について体験を通して考える。
第8回	事例検討（2） ロールプレイング	患者と看護師との関係について体験を通して考える。
第9回	集団療法と看護 グループワークと看護	実際に体験を通して考える。
第10回	生活技能訓練（SST）と看護（1）	精神障がい者の特徴をとらえ、生活技能訓練の必要性と方法について考える。
第11回	生活技能訓練（SST）と看護（2）	実際に体験を通して考える。
第12回	作業療法とレクリエーション療法における看護	レクリエーション計画を作成することを通して看護について考える。
第13回	司法精神看護	精神障がい者と人権について事例を通して自分の考えをまとめる。
第14回	精神障がい者の家族支援（1） ・家族支援に必要な援助技術の原則、入院から退院へ向けた家族介入	精神障がい者の家族が抱える課題と援助のありかたを考える。
第15回	精神障がい者の家族支援（2） ・地域精神保健医療資源、訪問活動、他ソーシャルサポート	精神障がい者が地域で生活するために何が 필요한のか考える。

■履修上の注意

- ・精神に関連する科目、精神看護学概論で得た知識をつなげて学習する。
- ・復習、予習を行ない自己学習をして取り組むことが大切である。
- ・実際に体験を通して学ぶ内容については、自分の感じたことや考えたことを基にして考える。

■評価方法

出席状況（10%）、授業参加態度（10%）、レポート、試験等（80%）の総合評価で行なう。

■教科書

川野雅資編集：精神看護学Ⅱ精神臨床看護学 第5版, Nouvelle Hirokawa, 2010.

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	成人看護学概論		担当教員 (単位認定者)	平賀 元美	単位数	1
対象学年	1(後期)	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択	必修

■授業の到達目標・期待される学習効果

成人の特徴及び健康問題を理解するとともに、成人の問題への取り組み方の特徴を理解して、看護に役立てる能力を身につける。
成人看護を理解し実践するうえで基礎となる概念を経過別の枠組みで理解する。

■授業の概要

既習の知識を想起し、学生が主体的に文献検索してグループワークを行う中で成人の特徴を明らかにするとともに、保健衛生の動向からみた成人の健康障害の特徴を理解する。
また成人の問題解決方法については、看護を理解する上での基礎となる概念を事例に照らして理解し、看護の方法を検討できる能力を養う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 成人看護学の構造と学習課題	
第2回	成人期にある人々の理解・グループワーク[1] 成人期における身体的発達、心理社会的発達(発達課題、社会的役割)	グループワークの準備
第3回	成人期にある人々の理解・グループワーク[2] 成人期における身体的発達、心理社会的発達(発達課題、社会的役割)	グループワークの準備
第4回	成人期にある人々の理解・グループワーク[3] 成人期における身体的発達、心理社会的発達(発達課題、社会的役割)	グループワークの準備
第5回	成人期にある人々の理解・グループワーク[4] 成人期における身体的発達、心理社会的発達(発達課題、社会的役割)	グループ発表のレジュメ作成
第6回	成人期にある人々の理解・グループワーク[5] 発表 成人期における身体的発達、心理社会的発達(発達課題、社会的役割)	グループワーク発表
第7回	成人期にある人々の理解 成人各期にある人々を取り巻く環境と健康課題 成人各期にある人々の生活習慣と健康課題	テキスト1)2)参照
第8回	成人看護の目的と特性 成人看護の機能する場と役割	テキスト1)2)参照
第9回	成人期にある人々の健康の保持増進のための看護 エンパワーメント、ヘルスプロモーション、メンタルヘルスケアの理解	テキスト1)参照 事例提示
第10回	事例に基づく健康の保持増進のための看護の理解	事例についてまとめたものを発表
第11回	成人の健康障害とその経過の特徴 (急性期、回復期、慢性期、終末期、周手術期)	テキスト1)参照
第12回	成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護(慢性的な経過) コンプライアンス、セルフケア、セルフケアグループの理解	テキスト1)参照 事例提示
第13回	事例に基づく慢性的な経過をたどる人の看護の理解	事例についてまとめたものを発表
第14回	成人期にある人々の健康逸脱・疾病時の看護(急性的な経過、終末的な経過) ストレスコーピング、悲嘆のプロセス、危機の理解	テキスト1)参照 事例提示
第15回	事例に基づく健康逸脱時・疾病時の看護の理解	事例についてまとめたものを発表

■履修上の注意

人体構造機能学、疾病治療論を習得のこと。

■評価方法

筆記試験(70%)及び課題レポート(30%)により評価

■教科書

- 1) 小松浩子他 系統看護学講座成人看護学[1] 成人看護学総論
- 2) 国民衛生の動向
- 3) 黒田裕子 よくわかる中範囲理論 学研

■参考書

授業内で適宜紹介する。

科目名	高齢者看護学概論			担当教員 (単位認定者)	橋本 知子 他	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. 看護の対象となる高齢者看護を理解するための総論となる基礎知識を学ぶ。
2. 老いを生きる高齢者に焦点を当て、エイジングや発達課題について理解する。
3. 今日の高齢社会の諸相について統計的資料を活用して理解を深める。
4. 高齢社会における今日の課題である拘束・虐待を理解する。
5. 高齢者の自立と権利を守るための諸制度について理解する。
6. ライフサイクルの最終段階における死の概念について理解する。

■授業の概要

今日の高齢社会の諸相を統計的側面で大局的にとらえる。さらに、身体的側面では、加齢過程を把握し高齢者の発達段階・課題を理解する。また、高齢社会における保健・医療・福祉の動向とその課題について理解を深める。それらを通して、高齢者看護の理念並びに高齢者看護の視点で洞察する事ができる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、1. 老いの概念 2. 老いの過程を知る。3. 身体的側面・心理的・社会的側面の変化	第1章p2-12の項を復習する。
第2回	高齢社会と社会保障 1. 高齢社会の統計的輪郭 ①わが国の高齢化②高齢者のいる世帯③高齢者の健康状態と暮らし	第2章p20-28を予習・復習する。
第3回	高齢社会における保健医療福祉の動向①ソーシャルサポート②保健医療福祉制度の変遷	第2章p29-30を予習復習する。
第4回	保健医療福祉システム構築(1)①保健医療福祉制度の変遷②高齢者福祉施設	第2章p30を予習・復習する。
第5回	保健医療福祉システム構築(2)③老人医療費の増加④保健医療福祉の連携と在宅サービスと新たな推進	第2章p31、を予習・復習する。
第6回	保健医療福祉システム構築(3)⑤介護保険制度⑥高齢者医療制度	第2章p32、を予習・復習する。
第7回	保健医療福祉システム構築(4)⑦介護保険制度創設と改正⑧介護保険制度の理念・しくみ・サービス・予防	第2章32-41、を予習・復習する。
第8回	保健医療福祉システム構築(5)⑨高齢者を支える職種・活動の場・専門化⑩保健医療福祉施設における看護⑪介護家族への看護	第7章p310-341、を予習・復習する。
第9回	高齢者社会における権利擁護(1)①スティグマと差別②エイジズム③権利擁護	第2章46-48、を予習・復習する。
第10回	高齢者社会における権利擁護(2)④高齢者虐待⑤身体拘束⑥制度	第2章48-58、を予習・復習する。
第11回	高齢者看護の理念①老年看護の成り立ち②老年看護の定義と変遷③目指すもの	第3章p62-65、配布資料を予習・復習する。
第12回	高齢者看護の実践の特徴と責務	第3章p65-70、配布資料を予習・復習する。
第13回	高齢者の健康問題とライフサイクルの最終段階における死の概念と支援	第6章Dp297-306、関連資料を予習・復習する。
第14回	長寿社会を生きる社会生活の条件や地域資源を活用した看護	第7章p310-341を予習・復習する。
第15回	高齢者看護に関する基礎的知識を統合	学習記録ノートを基に整理する。配布資料や作成ノートを必ず持参すること。

■履修上の注意

日本をはじめ世界が高齢社会をむかえている。高齢社会が抱える政治・経済・生活上の問題について、報道されるニュース・記事・などに日頃から関心を寄せ、そして、高齢社会が発信している諸事象に関する新聞や雑誌や本などを手にとり読み、かつ自分なりの感想を持って知識をひろげ深めてほしい。また身近に住んでいる高齢者にも関心をよせてみて、できればコミュニケーションをとる。15回の講義は高齢者看護を理解しやすいように組み立てているので休まないで積極的に講義に参加する

■評価方法

1. 試験80-90%
2. 課題レポート(身近な高齢者とコミュニケーションを図り高齢者観についてレポートする10%)
3. 授業への参加状況 1, 2, 3を総合的に評価する

■教科書

・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

■参考書

・高齢者の健康と障害 メディカ出版、 ・随時資料提示